YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

モーターサイクル

YZF-R1 (YZF1000)
YZF-R1M (YZF1000D)

BMP-28199-J0

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
各部の取り扱いと操作 4
日常点検 5
運転操作 6
点検整備 7
お車の手入れ 8
製品仕様 9
ユーザー情報 10
索引 11

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。
- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
あなた自身と同乗者のために.....1-1
歩行者と他の車のために 1-5
環境・住民の方との調和のために.....1-6

各部の名称 2-1
左側面.....2-1
右側面.....2-2
運転装置と計器類.....2-3

車両の特徴 3-1
YRC（ヤマハライドコントロール）....3-1
用語集.....3-4
YRC ビジュアルガイド.....3-5

各部の取り扱いと操作 4-1
キーの取り扱い.....4-1
イモビライザーシステム 4-1
メインスイッチ.....4-2
ハンドルスイッチ.....4-3
警告灯と表示灯.....4-6
ディスプレイ 4-8
メニュー画面 4-13
シフトペダル 4-29
ブレーキコントロール (BC).....4-29
フューエルタンクキャップ.....4-30
燃料.....4-31
シート.....4-32
ヘルメットホルダー 4-33
書類入れ 4-33
書類トランク 4-34
バックミラー 4-34
フロントフォークの調整..... 4-34
リヤクッションの調整 4-37
ブレーキレバーの握り調整..... 4-41
DC コネクター 4-41
サイドスタンド..... 4-41
イグニッションサーキット
　カットオフシステム 4-42

日常点検.....5-1
日常点検の実施 5-1
日常点検箇所／点検内容..... 5-1

運転操作.....6-1
ならし運転 6-1
エンジン始動..... 6-1
ギヤチェンジのしかた 6-2
ブレーキ..... 6-3
駐車 6-4

点検整備.....7-1
点検整備の実施 7-1
サービスツール 7-2
カバーの取り外し、取り付け 7-2
エンジンオイル 7-4
エンジンのかかり具合、
　異音の点検..... 7-5
低速、加速の状態の点検..... 7-6
冷却水 7-6
エアクリーナーエレメントの交換 7-7
タイヤ 7-7
クラッチ..... 7-9
ブレーキレバーの遊び／
　ブレーキペダルの遊び、および
　ブレーキのきき具合の点検.....7-10
ブレーキランプスイッチの点検 7-10
ブレーキパッドの点検.....7-11
ブレーキ液量の点検 7-11
ドライブチェーン.....7-12
ドライブチェーンの給油 7-13
車体各部の給油脂状態の点検.....7-13
アンダーブラケットの
　取り付け状態の点検
　（ステアリングステム）.....7-14
バッテリー.....7-14
ヒューズ交換.....7-15
灯火装置および方向指示灯の点検....7-18
運行において異常が認められた
　箇所の点検.....7-18

お車の手入れ 8-1
洗車 8-1
アルミフレーム、
　キャストホイールの取り扱い 8-2
保管のしかた.....8-2
アフターケア用品について 8-3

製品仕様.....9-1

ユーザー情報 10-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1
サービスマニュアル（別売）の
　紹介.....10-2
車両情報 10-2

索引 11-1

安全運転のために

1

JAU27281

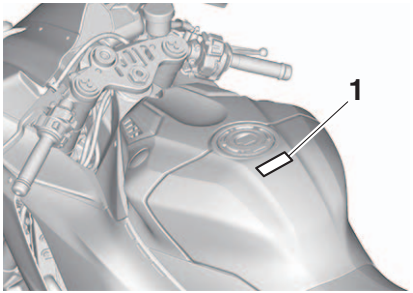
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警　告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

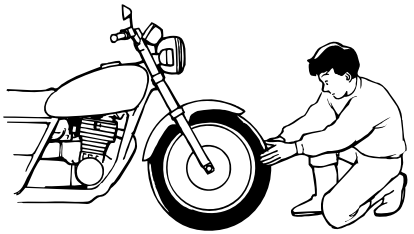
JWA11601

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた１年、２年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



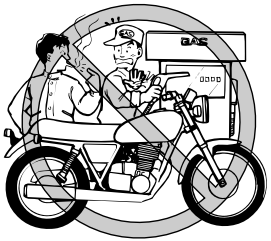
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

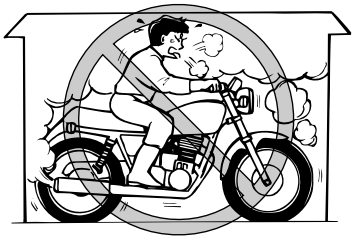
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



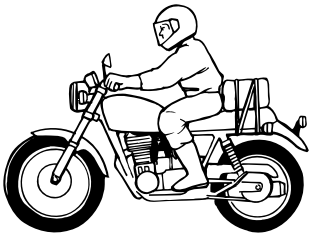
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



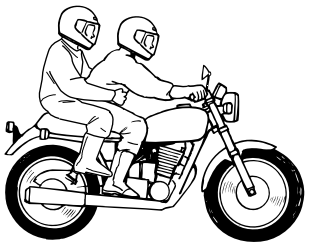
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

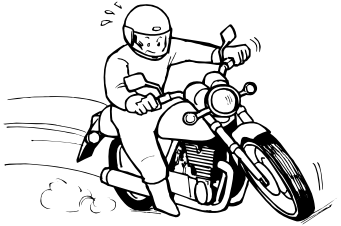


乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

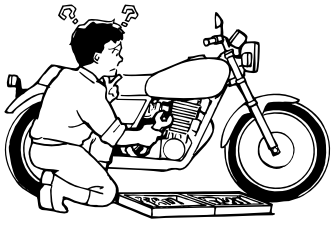
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。
- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

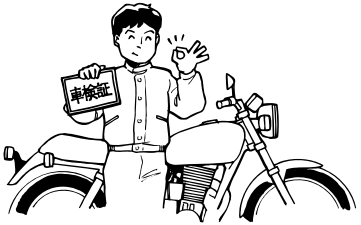


JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける
二輪の小型自動車（251cm³ 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



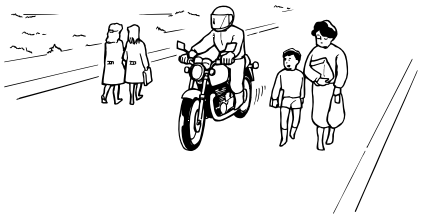
1

歩行者と他の車のために

JAU27504

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



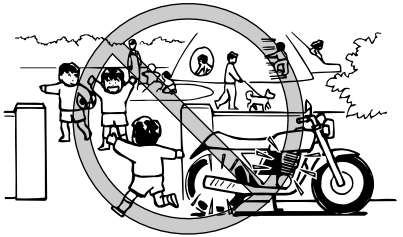
駐車

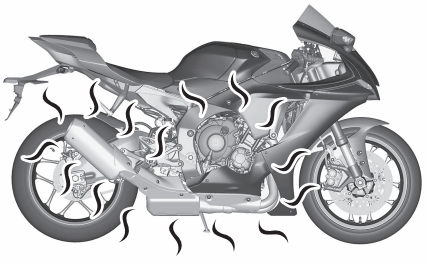
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。





昼間はヘッドライトを下向きに

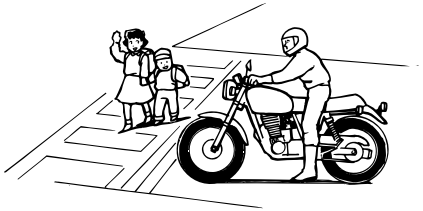
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

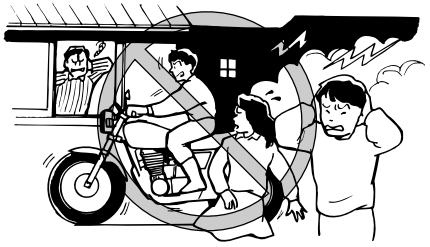
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

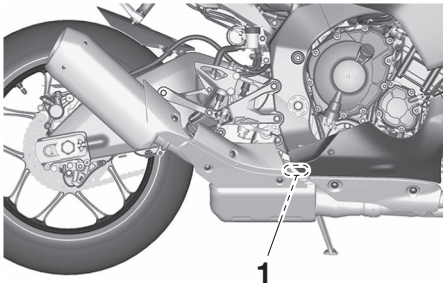


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

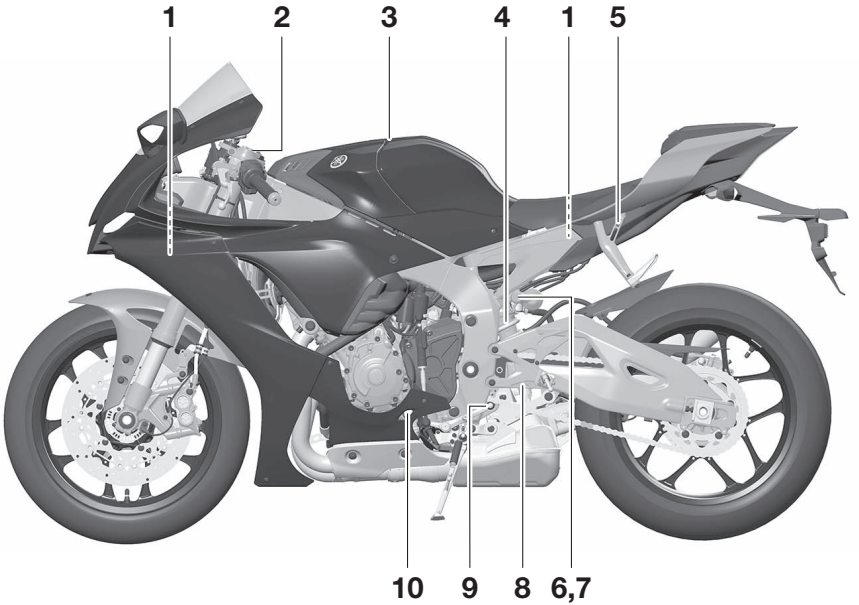
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

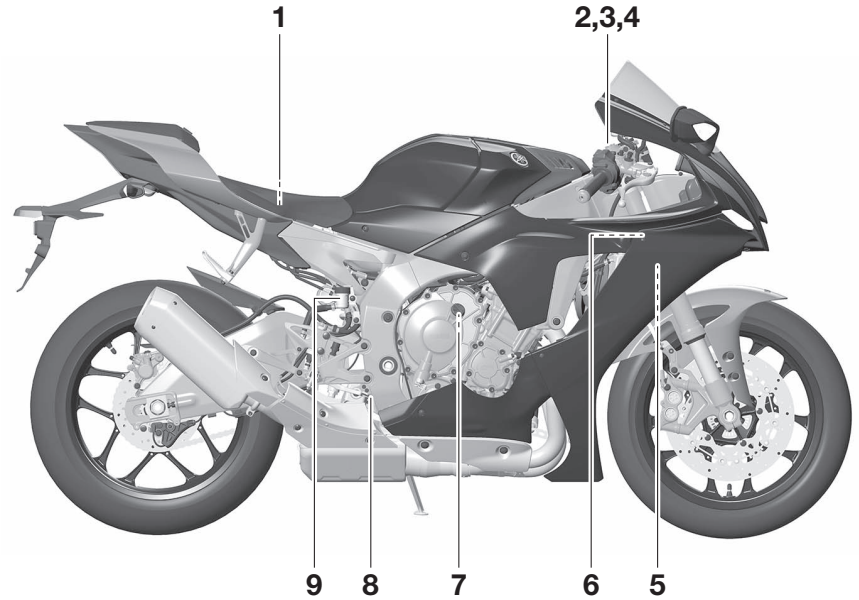
2



1. ヒューズ（P7-15）
2. ERS カプラー (YZF-R1M) (P4-34)
3. フューエルタンクキャップ（P4-30）
4. スプリングプリロードアジャスター (P4-37)
5. ヘルメットホルダー（P4-33）
6. 高速減衰時用圧側減衰力アジャスター (YZF-R1)（P4-37）
7. 低速減衰時用圧側減衰力アジャスター (YZF-R1)（P4-37）
8. 伸側減衰力アジャスター (YZF-R1) (P4-37)
9. シフトペダル（P4-29）
10. エンジンオイル点検窓（P7-4）

JAU10421

右側面

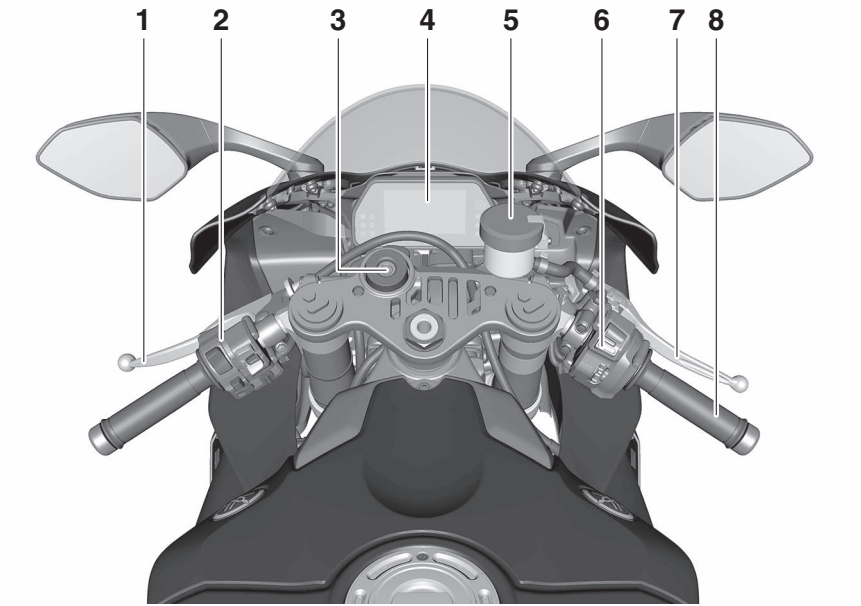


1. バッテリー（P7-14）
2. スプリングプリロードアジャスター (P4-34)
3. 伸側減衰力アジャスター (YZF-R1) (P4-34)
4. 圧側減衰力アジャスター (YZF-R1)（P4-34）
5. リカバリータンク（P7-6）
6. 書類トランク（P4-34）
7. オイル注入口（P7-4）
8. ブレーキペダル（P7-10）
9. リヤブレーキリザーバータンク（P7-11）

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類



1. クラッチレバー（P7-9）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-3）
3. メインスイッチ / ハンドルロック（P4-2）
4. インストルメントパネル (P4-6/P4-8)
5. フロントブレーキリザーバータンク（P7-11）
6. ハンドルスイッチ（右）（P4-3）
7. ブレーキレバー（P7-10）
8. スロットルグリップ

JAU6629D

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。車両の傾斜角度、加速度や、前後、上下、左右の各方向に沿った力を検出し、1 秒間に複数回の演算処理を行い、必要に応じて自動的に各システムが調整されます。下記の個々の YRC 項目について、オン／オフを切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。（4-10 ページ、4-14 ページ参照）

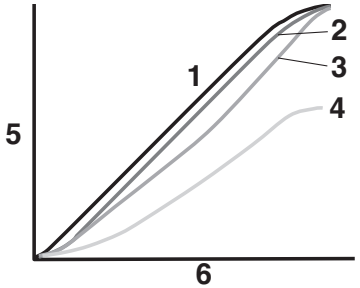
JWA18221

⚠警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップや前輪が浮いてしまうことを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

PWR（パワーデリバリーモード）

PWR は、スロットルグリップの操作量に応じてスロットルバルブの開度を調整する、4 つの制御マップからなります。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。



1. PWR 1
2. PWR 2
3. PWR 3
4. PWR 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、トラクションコントロールシステムはスリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。このとき、トラクションコントロールシステム表示が点滅し、ライダーにトラクションコントロールシステムが有効になったことを知らせます。

トラクションコントロールシステムは、車両の傾斜角度に応じて自動的に制御します。最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、トラクションコントロールシステム制御が強くなります。



トラクションコントロールシステム

要 点

- トラクションコントロールシステムは、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- トラクションコントロールシステムや他の YRC システムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

- トラクションコントロールシステムがオフになると、SCS、LCS、LIF も自動的にオフになります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車両と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

車両の電源をオンにすると、トラクションコントロールシステムは自動的にオンになります。トラクションコントロールシステムのオン、オフは、車両の電源がオンの状態で車両が停車しているときのみ切り替えられます。

要 点

車両が泥や砂、その他のやわらかい路面にはまった際は、トラクションコントロールシステムを OFF にして、後輪の回転制御を停止します。

JCA16801

注 意

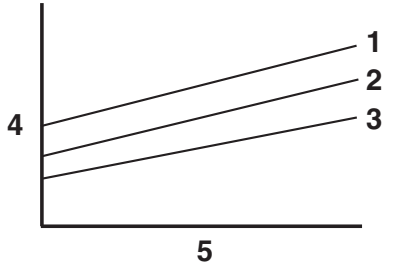
必ず指定タイヤを使用してください。（7-7 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

SCS（スライドコントロールシステム）

SCS は、後輪の横すべりを検知したとき、IMU からの情報に基づきエンジン出力を制御します。このシステムは、スムーズな走行をするためにトラクションコントロールシステムを支援します。

EBM（エンジンブレーキマネージメント）

EBM は、減速時にかかるエンジンブレーキを制御します。フューエルインジェクションや点火タイミング、電子スロットルバルブは ECU によって電子的に制御されます。トラックや走行条件、運転者の好みに合わせて 3 つの設定があります。



1. EBM1
2. EBM2
3. EBM3
4. エンジンブレーキ制動力
5. エンジン回転数（r/min）

JWA20880

⚠警 告

ギヤをシフトダウンする前に、エンジンが十分に減速していることを確認してください。エンジン回転数が高過ぎる状態でシフトダウンすると、後輪のトラクションが失われる可能性があります。これにより、車両の制御が不能になり、事故や怪我の原因となります。また、エンジンや駆動系を損傷するおそれがあります。

LCS（ローンチコントロールシステム）

LCS は、発進時にスムーズで素早いスタートをサポートします。スロットルグリップをいっぱいまで回したときでもエンジン回転数の上昇を抑えます。LCS は、トラクション

コントロールシステムや LIF と連携してエンジン出力を制御し、最適なトラクションと前輪の浮き上がりを抑制します。

JCA22950

注 意

LCSを使用する場合でもクラッチの損傷を防ぐため、クラッチレバーを徐々に離してください。

要 点

LCSはトラック走行のみでの使用を対象としています。

クイックシフター

クイックシフターは、電子制御により、クラッチ操作なしでのシフトチェンジを可能にしています。シフトロッド部にあるセンサーがシフトレバーの動きを検知すると、エンジン出力が調整され、変速が可能になります。

クイックシフターは、クラッチレバーが握られているときは機能しません。クイックシフターがオンになっていても、クラッチレバーを使用した通常の操作が可能です。クイックシフターの状態については、クイックシフター表示を確認してください。

クイックシフターの状態	クイックシフター表示	走行状況
シフトアップ可能	QS▲▽	加速している
シフトダウン可能	QS△▼	減速している
クイックシフター使用不可	QS△▽	停車している
クイックシフターオフ	QS	クイックシフターをオフにしている

シフトアップ操作の可能な条件

- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2200 r/min 以上
- 加速時（スロットルを開けている状態）

シフトダウン操作の可能な条件

- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2000 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い
- 減速時かつスロットルが完全に閉じた状態

要 点

- QS▲と QS▼は、それぞれ個別に設定できます。
- ギヤをニュートラルにするとき、またはニュートラルから他のギヤへシフトチェンジするときは、クラッチレバーを使用してください。

LIF（リフトコントロールシステム）

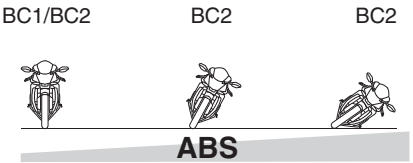
LIF は、発進時やコーナー出口からの加速時に前輪が浮き上がることを抑制します。前輪の浮き上がりを検知すると、エンジン出力を調整し、最適な加速が得られるよう制御します。

BC（ブレーキコントロール）

BC は、ブレーキ操作によりホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、2 つの設定ができます。

BC1 は、標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。

BC2 は、IMU からの情報に基づきコーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。



JWA20891

⚠ 警 告

ブレーキコントロールは、適切な走行やブレーキ技術に代わるものではありません。過度な速度により制動距離が長くなることや、滑りやすい路面でのスリップを防ぐことはできません。

ERS（電子レーシングサスペンション）(YZF-R1M)

Öhlins 製の ERS は、OBTi (objective-based tuning interface) により、走行状況に応じ、減衰力を自動的に調整する自動モードを備えています。手動モードは、詳細設定が可能な従来仕様のモードです。また、SCU により、フロントとリヤサスペンションの減衰力を個別に電子制御できます。

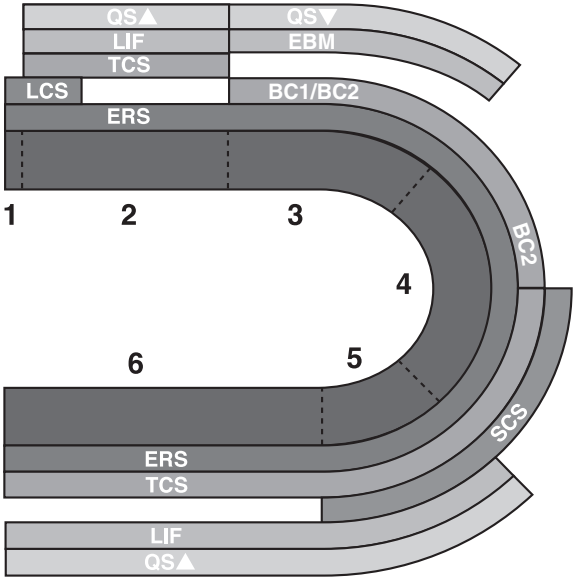
JAU66314

用語集

ABS - アンチロックブレーキシステム
ABS ECU - アンチロックブレーキシステム電子制御ユニット
BC - ブレーキコントロール
CCU - コミュニケーションコントロールユニット
EBM - エンジンブレーキマネージメント
ECU - エンジン制御ユニット
ERS - 電子レーシングサスペンション
GPS - 全地球測位システム
IMU - 慣性計測装置
LCS - ローンチコントロールシステム
LIF - リフトコントロールシステム
PWR - パワーデリバリーモード
SC - スタビリティコントロール
SCS - スライドコントロールシステム
SCU - サスペンション制御ユニット
YRC - ヤマハライドコントロール

JAU66912

YRC ビジュアルガイド

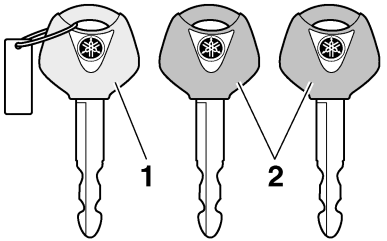


1. スタート
2. 加速
3. ブレーキ操作
4. コーナリング
5. 立ち上がり
6. 直線

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

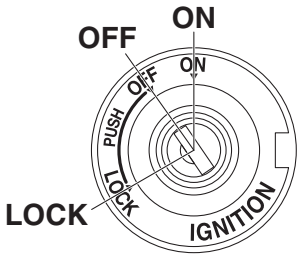
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 4-7 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

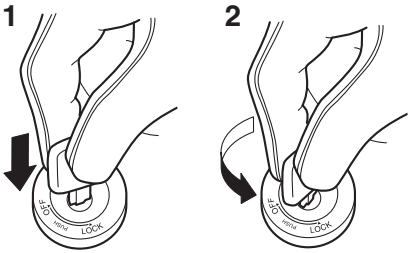
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73803

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



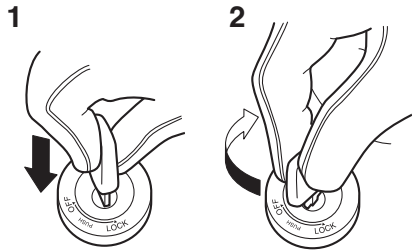
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



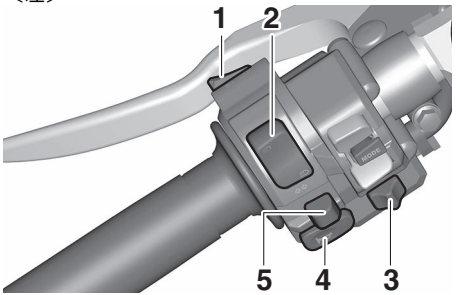
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのままOFFまで回します。

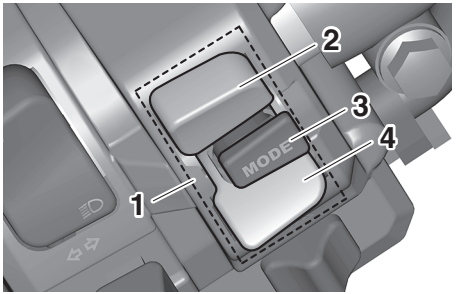
JAU66059

ハンドルスイッチ

＜左＞

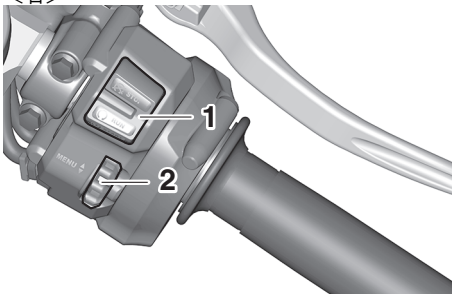


1. パッシングライト / ラップスイッチ “≡D/LAP”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡D/≡D”
3. ハザードスイッチ “OFF/⚠”
4. ホーンスイッチ “📯”
5. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”



1. モードスイッチ “MODE”
2. アップボタン
3. センターボタン
4. ダウンボタン

＜右＞



1. スターター／エンジンストップスイッチ “⊗/⏾/≋”
2. ホイールスイッチ “MENU▲▼”

JAU66091

パッシングライト／ラップスイッチ “≡○/LAP”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

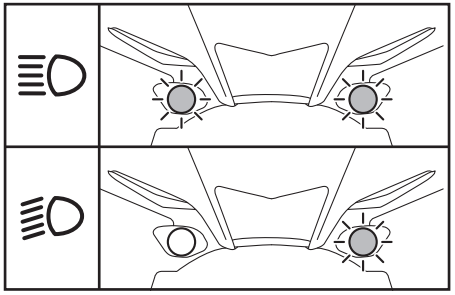
ヘッドライト上下切り替えスイッチが “≡○” のときは、使用できません。

また、ラップタイマー使用時にスイッチを押すと、各ラップの開始を記録します。

JAU98390

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡○/≡○”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。
≡○（上向き）：遠くを照らします。
≡○（下向き）：近くを照らします。



要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU66061

スターター／エンジンストップスイッチ “Ⓢ/○/⊗”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを “○” に合わせてから、スイッチの “Ⓢ” 側を押してください。

JCA11882

注　意

- **スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊗” にします。通常は “○” にしておきます。

JWA17700

⚠警　告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20772

注　意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “○” → “⊗” → “○” にしないでください。エンジン不調の原因となります。**

要　点

“⊗” にすると、エンジンは始動できません。

JAU88273

ハザードスイッチ “OFF/⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。
ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU88401

モードスイッチ “MODE”

モードスイッチを用いて、YRC の各モードを切り替えたり、PWR、TCS、SCS、EBM の各設定変更をメイン画面で行うことができます。このスイッチには以下 3 つのボタンがあります。
アップボタン - このボタンを押して、選択した YRC 設定を繰り上げます。
センターボタン - このボタンを押して、MODE、PWR、TCS、SCS、EBM の各モードを左から右にスクロールします。
ダウンボタン - このボタンを押して、選択した YRC 設定を繰り下げます。

要 点

- センターボタンは、ローンチコントロールシステムを起動するときにも使用します。LCS アイコンが灰色で表示されているとき、アイコンが点滅して白色に変わるまでセンターボタンを押すとシステムが起動します。
- トラクションコントロールシステムは、メイン画面からのみオフにすることができます。センターボタンを押して TCS を選択し、TCS OFF が表示されるまでアップボタンを押します。もう一度オンにするには、ダウンボタンを押します。
- トラクションコントロールシステムをオフにすると、すべての YRC モードでの SCS、LCS、LIF がオフになります。
- YRC モードのカスタマイズや YRC 項目の設定値の調整についての詳細は、4-14 ページの “YRC Setting” 項目をご参照ください。

JAU66100

ホイールスイッチ “MENU▲▼”

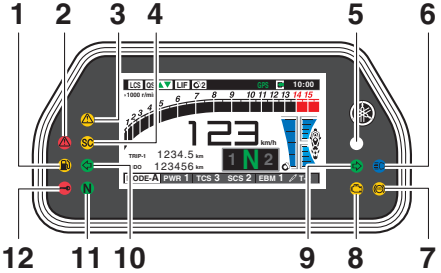
メイン画面が STREET MODE にセットされているときは、ホイールスイッチで情報ディスプレイのスクロールをしたり、表示項目のリセット操作を行ったりできます。
メイン画面が TRACK MODE にセットされているときは、ホイールスイッチで情報ディスプレイのスクロール、表示項目のリセット操作を行ったり、ラップタイマーを有効化することができます。
表示がメニュー画面のときは、ホイールスイッチで設定項目を移動させたり、設定の変更を行ったりできます。
ホイールスイッチは、次のとおり操作します。
上に回す - ホイールを上方向に回すと、上もしくは左方向に移動させたり、設定の値を増加させたりできます。
下に回す - ホイールを下方向に回すと、下もしくは右方向に移動させたり、設定の値を減少させたりできます。
短押し - 短くスイッチを押し込むと、選択した内容を確定できます。
長押し - 1 秒以上スイッチを押し込むと、表示項目をリセットし、メニュー画面へ戻ることができます。

要 点

- メイン画面と機能についての詳細は、4-8 ページをご参照ください。
- メニュー画面と設定の変更についての詳細は、4-13 ページをご参照ください。

JAU4939Y

警告灯と表示灯



1. 燃料残量警告灯 “ ”
2. 油圧・水温警告灯 “ ”
3. 補助システム警告灯 “ ”
4. スタビリティコントロール表示灯 “SC”
5. シフトタイミングインジケーターランプ “ ○ ”
6. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
7. ABS 警告灯 “ ”
8. エンジン警告灯 “ ”
9. 方向指示器表示灯（右）“ ”
10. 方向指示器表示灯（左）“ ”
11. ニュートラルランプ “N”
12. イモビライザーシステム表示灯 “ ”

JAU88280

方向指示器表示灯 “ ”/“ ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88300

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88310

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU91001

燃料残量警告灯 “ ”

燃料残量が約 3.0 L 以下になると点灯します。早めに給油してください。
燃料残量警告灯回路が故障した場合、警告灯が繰り返し点滅します。故障した場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

JAU88331

エンジン警告灯 “ ”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。

- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU90990

ABS 警告灯 “ABS”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

JWA16043

⚠ 警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAU67434

シフトタイミングインジケーターランプ “○”

このインジケーターは、シフトアップのタイミングをお知らせします。インジケーターが点灯または消灯するエンジン回転数は、お好みの回転数に設定することができます。(4-23 ページ参照)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。インジケーターランプが全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88350

イモビライザーシステム表示灯 “”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーのIDの認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAU88391

スタビリティコントロール表示灯 “SC”

トラクションコントロールシステム、SCS、または LIF が作動すると、この表示灯が点灯します。また、トラクションコントロールシステムがオフの場合や、走行中にトラクションコントロールシステムが無効になった場合にも点灯します。

要 点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU88362

油圧・水温警告灯 “⚠”

エンジン油圧が低い、もしくはエンジン冷却水温が高いときに、この警告灯が点灯します。この場合、エンジンをすぐに停止してください。

要　点

- 車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- 異常が発生したとき、警告灯が点灯し、油圧警告アイコンが点滅します。

JCA22441

注 意

油圧・水温警告灯がエンジン始動後に消灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、すぐに停車してエンジンを停止してください。

- **エンジンがオーバーヒートしているときは、水温警告アイコンが点灯します。エンジンを冷ましてください。また、冷却水量を点検してください。（7-6 ページを参照）**
- **エンジンオイルの油圧が低いときは、油圧警告アイコンが点灯します。オイル量を点検してください。（7-4 ページを参照）**
- **エンジン冷却後やオイル補充後にも警告灯や警告アイコンが点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。点検を受けないまま、引き続き車両を運転しないでください。**

JAU88370

補助システム警告灯 “⚠”

エンジン以外のシステムに異常が発生したとき、警告灯が点灯します。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU79287

ディスプレイ

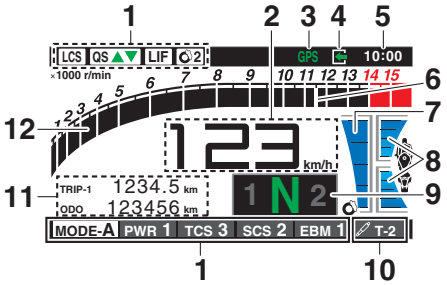
ディスプレイには、ストリートモード（STREET MODE）とトラックモード（TRACK MODE）の 2 種類があります。ほとんどの機能は同じですが、レイアウトが多少異なります。ディスプレイには、次の項目があります。

- スピードメーター
- タコメーター
- 情報ディスプレイ
- ギヤポジション表示
- フロントブレーキ圧表示
- 加速度表示
- YRC ディスプレイ
- ERS ディスプレイ（YZF-R1M）
- GPS アイコン（CCU 搭載時）
- ロギングアイコン（CCU 搭載時）
- 時計
- 最大回転数ホールド表示
- ラップタイマー
- 警告アイコン
- エラーモード警告アイコン “Err”

要　点

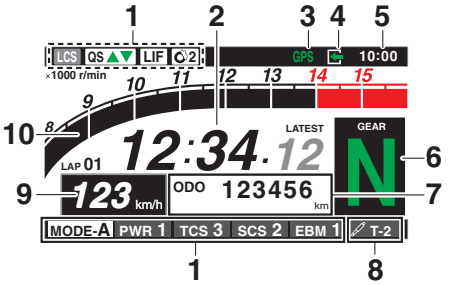
このモデルは TFT LCD により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見易さを実現しています。しかし、場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。

ストリートモード



1. YRC ディスプレイ
2. スピードメーター
3. GPS アイコン（CCU 搭載時）
4. ロギングアイコン（CCU 搭載時）
5. 時計
6. 最大回転数ホールド表示
7. フロントブレーキ圧表示
8. 加速度表示
9. ギヤポジション表示
10. ERS ディスプレイ（YZF-R1M）
11. 情報ディスプレイ
12. タコメーター

トラックモード



1. YRC ディスプレイ
2. ラップタイマー
3. GPS アイコン（CCU 搭載時）
4. ロギングアイコン（CCU 搭載時）
5. 時計
6. ギヤポジション表示
7. 情報ディスプレイ
8. ERS ディスプレイ（YZF-R1M）
9. スピードメーター
10. タコメーター

JWA18210

⚠警 告

設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要　点

- メーターのキロメートルとマイルの単位切り替えについては、4-21 ページを参照してください。
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

スピードメーター

スピードメーターは、車両の走行速度を表示します。

タコメーター

タコメーターは、毎分のエンジン回転数を表示します。

要　点

- トラックモードでは、タコメーターは 8000 r/min 以上を表示します。
- ストリートモードでは、タコメーターは色の調整ができるほか、オン／オフ可能な最大回転数ホールド表示があります。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 14000 r/min 以上

情報ディスプレイ

この部分は、気温や冷却水温、トリップメーター、燃費の状態などの情報を表示します。表示項目は、メニュー画面で 4 つのグループに設定できます。
情報ディスプレイの項目は、次のとおりです。

A.TEMP: 気温
C.TEMP: 冷却水温
TRIP-1: トリップメーター 1
TRIP-2: トリップメーター 2
F-TRIP: フューエルトリップメーター
ODO: オドメーター
FUEL CON: 燃料消費量
FUEL AVG: 平均燃料消費量
CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量

要　点

- オドメーターは、999999 で固定されます。
- TRIP-1 と TRIP-2 は 9999.9 までカウントを続け、その後リセットされます。
- 燃料タンクの残量が少なくなると、F-TRIP が自動的に表示され、その時点からの走行距離を表示します。
- 給油後、一定距離を走行すると、F-TRIP は自動的に消灯します。
- 燃料消費量の単位の切り替えは、4-21 ページの “Unit” を参照してください。
- 表示される気温は、外気温と一致していない場合があります。
- トラックモードでは、情報ディスプレイ項目として、FASTEST（最速ラップタイム）、AVERAGE（平均ラップタイム）も表示できます。

TRIP-1、TRIP-2、F-TRIP、FUEL CON、FUEL AVE の各項目は、個別にリセットできます。

情報ディスプレイ項目のリセット

1. ホイールスイッチを用いて、リセットしたい表示項目が現れるまで画面を移動させます。
2. ホイールスイッチを短押しすると、選択項目が約 5 秒間点滅します。（ストリートモードでは、2 つの項目がリセット可能な場合、上の項目がはじめに点滅します。下の項目を選択するには、下に移動します。）
3. 選択した項目が点滅している間に、ホイールスイッチをリセットされるまで押します。

ギヤポジション表示
ギヤが何速に入っているかを表示します。このモデルは、ニュートラルと 6 段変速です。ニュートラル位置は、ニュートラルランプ “N” と、ギヤポジション表示 “**N**” により表示されます。

フロントブレーキ圧表示
フロントブレーキの制動力の大きさを表示します。

加速度表示
加速時、減速時の加速度を表示します。

最大回転数ホールド表示
タコメーターに短い棒が一時的に現れ、直近の最高エンジン回転数を示します。

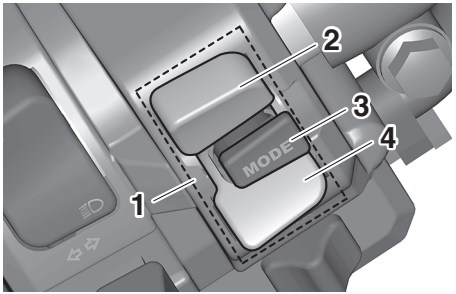
YRC ディスプレイ（MODE、PWR、TCS、SCS、EBM）
現在のモード（YRC モード）と、関連する PWR、TCS、SCS、EBM の設定が表示されます。
YRC 項目（PWR、TCS、SCS、LCS、QSS、LIF、EBM、BC）個々の設定は、4 つのグループに分け、個別に管理・設定できます。これらの設定グループには、MODE-A、MODE-B、MODE-C、MODE-D があります。モードスイッチを用いて YRC モードを切り替え、またメイン画面から設定を変更することもできます。

要　点

YRC モードは、異なる乗車条件に合わせて、工場出荷時に初期設定がされています。工場設定を使用する場合、推奨される YRC モードは次の通りです。
MODE-A: トラック走行に最適な設定です。
MODE-B: ソフトなトラック走行向けの設定です。
MODE-C: 一般走行に最適な設定です。
MODE-D: ツーリングや雨天時向けの設定です。

YRC モードの切り替えおよび設定の変更

1. モードスイッチのセンターボタンを押し、調整したい項目をハイライトさせます。

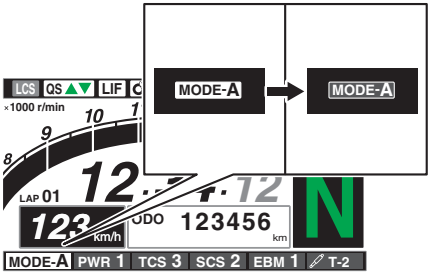


1. モードスイッチ “MODE”
2. アップボタン
3. センターボタン
4. ダウンボタン

2. モードスイッチのアップボタンまたはダウンボタンを押し、選択項目の設定値を変更します。

要　点

- エンジン警告灯が点灯している場合、YRC の設定変更はできません。
- YRC 機能がアクティブになっている場合、その項目は調整できません。例えば、減速中は EBM を調整できません。
- YRC　項目がハイライトされていても調整できないときは、YRC 項目のボックスが元に戻ります。



トラクションコントロールシステムをオフにするには、センターボタンで TCS を選択し、TCS OFF が表示されるまでアップボタンを長押しします。再びトラクションコントロールシステムをオンにするには、TCS OFF を選択し、ダウンボタンを押します。（トラクションコントロールシステムは以前の設定に戻ります。）

要　点

トラクションコントロールシステムをオフにすると、全ての YRC モードで、SCS、LCS、LIF がオフになります。

YRC ディスプレイ（LCS、QS、LIF、BC）

YRC 項目 LCS、QS、LIF、BC のオン / オフの状態が表示されます。これらの項目のいずれかが現在選択されている YRC モードに登録されると（OFF に設定しないと）、それぞれのアイコンが表示されます。

現在選択されている YRC モードに LCS が登録されると、LCS アイコンがグレーで表示されます。ローンチコントロールシステムを起動するには、LCS アイコンが点滅から点灯に変わり白色になるまで、センターボタンを長押しします。

要　点

LCS、QS、LIF、BC は、メニュー画面からのみ調整できます。

ERS ディスプレイ “ERS” （YZF-R1M）

この表示は現在の ERS モードを表示します。（ERS モードの変更と調整は、4-14 ページの “YRC Setting” と 4-17 ページの “ERS” を参照してください。）ERS ディスプレイが表示されない場合は、車両を停止させ、表示されるまで数秒間待ってください。

要　点

- サスペンションは、セルフリセットが完了するまで、以前の設定に固定されます。
- ERSディスプレイが正常に表示されない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

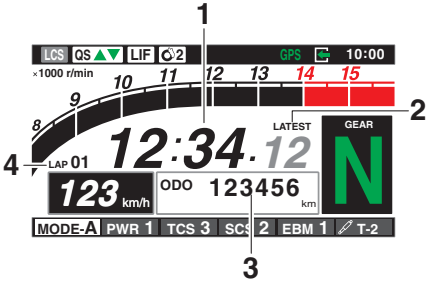
GPS アイコン “GPS” （CCU 搭載時）

GPS ユニットが車両と同期すると、GPS アイコンが表示されます。

ロギングアイコン “ ”
(CCU 搭載時)
ロギング機能により車両情報が記録されていると、ロギングアイコンが表示されます。記録の開始と停止方法については、4-20 ページの “Logging” を参照してください。

時計
この時計は 12 時間表示です。

ラップタイマー
このストップウォッチ機能は、40 周回分のラップタイムを記録できます。メイン画面では、ラップタイマーは現在のラップタイムと周回数を表示します（LAP マークが表示されます）。MODE/LAP スイッチでラップタイムを記録します。周回が終わると、ラップタイマーは最新のラップタイム（LATEST マークが表示されます）を約 5 秒間表示します。



1. ラップタイム
2. 最新ラップタイム表示 “LATEST”
3. 情報ディスプレイ項目
4. 周回数

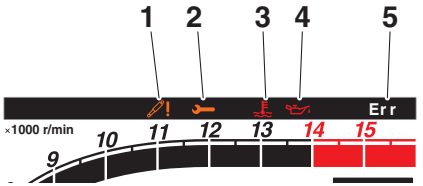
ラップタイマーの使い方

1. ホイールスイッチを短押しします。情報ディスプレイの項目が約5秒間点滅します。
2. 点滅している間に、ホイールスイッチを上方向に回します。ラップタイマーが約 5 秒間点滅します。
3. 点滅している間に、ホイールスイッチを長押ししてラップタイマーを有効にするか、停止させます。有効になると、“:” が点滅を開始します。
4. ラップタイマーが有効になったら、MODE/LAP スイッチを押して、計測を開始します。

要　点

- ラップタイマーを使用するには、エンジンが始動している必要があります。
- 情報ディスプレイを　FASTEST　または AVERAGE に設定し、追加のラップタイム情報を表示できます。
- メニュー画面にアクセスすると、ラップタイマーは自動的に停止します。
- ラップタイマーが停止しているときは、現在のラップについては記録されません。
- ラップタイムの記録は、メニュー画面から確認およびリセットができます。

警告アイコン



1. SCU 警告アイコン “ ”
2. 補助システム警告アイコン “ ”
3. 水温警告アイコン “ ”
4. 油圧警告アイコン “ ”
5. エラーモード警告アイコン “Err”

異常が検知されると、以下の警告アイコンが表示されます。

SCU 警告アイコン “ ” (YZF-R1M)
前後サスペンションに異常が検知されると、この警告アイコンが表示されます。

補助システム警告アイコン “ ”
エンジン以外のシステムに異常が検知されると、この警告アイコンが表示されます。

水温警告アイコン “ ”
エンジン冷却水温が 117 °C 以上になると、この警告アイコンが表示されます。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告アイコン “ ”
エンジン運転中に油圧が低下すると、このアイコンが表示されます。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまでこのアイコンが点灯します。

要 点

異常が検知されると、この警告アイコンが繰り返し点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

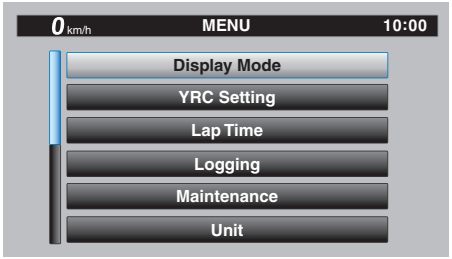
エラーモード警告アイコン “Err”
内部エラーが発生すると、次のとおりエラーモード表示が現れます。
“Err” と “ ” は、ECU のエラーを示します。
“Err” と “ ” は、SCU のエラーを示します。
“Err” のみは、ABS ECU のエラーを示します。

要 点

エラーの状態によっては、ディスプレイは正しく機能せず、車両の設定も変更できないことがあります。また、ABS が正しく作動していない場合があります。ブレーキを使用するときは、十分に注意し、直ちにヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU7929B

メニュー画面



メニュー画面には、次の設定モジュールがあります。モジュールを選択し、関連する設定に変更を施します。メイン画面からも一部の設定の変更やリセット操作は行えますが、メニュー画面では全ての表示および設定モジュールにアクセスできます。

モジュール	説明
Display Mode	メイン画面の、ストリートモードとトラックモード表示を切り替えます。
YRC Setting	YRC および ERS（YZF-R1M）の設定を行います。
Lap Time	ラップタイムの表示およびリセットを行います。
Logging	車両情報のロギング機能のオン／オフを切り替えます。（CCU 搭載時）
Maintenance	3 種類の定期点検項目インターバルの表示およびリセットを行います。

Unit	燃料消費単位およびキロメートルとマイル単位の設定を行います。
Wallpaper	背景色を設定します。
Shift Indicator	シフトタイミングインジケーターランプのオン／オフの切り替え、および回転数の設定を行います。
Display Setting	情報ディスプレイの表示項目の設定を行います。
Brightness	画面の明るさを調節します。
Clock	時刻調整を行います。
All Reset	全ての設定を工場出荷時の設定に戻します。

メニュー画面へのアクセスと操作

次のホイールスイッチ操作によるアクセス、選択、移動は、メニュー画面およびモジュールで共通です。

長押し - ホイールスイッチを 1 秒以上押すことで、メニュー画面にアクセスもしくはメニュー画面からメイン画面に戻ります。

選択 - ホイールスイッチを上下に回転させてモジュールや設定項目をハイライトさせ、ホイールスイッチを短押しして選択を確定します。

三角マーク - 設定画面によっては、上向きの三角マークがあります。三角マークを選択してホイールスイッチを短押しすると、設定変更を保存し、画面を一つ前に戻すことができます。

要　点

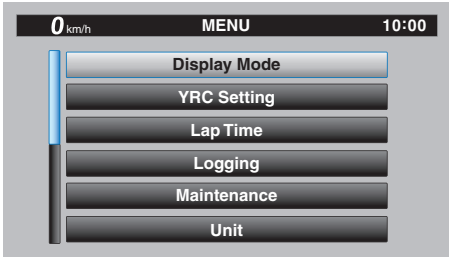
- 車両の動きが検知されると、自動的にメニュー画面を抜け、メイン画面に戻ります。
- 設定変更を確実に保存するには、必ず三角マークから終了してください。長押しして メニュー画面からメイン画面に戻ると、設定変更が保存されない場合があります。

“Display Mode”

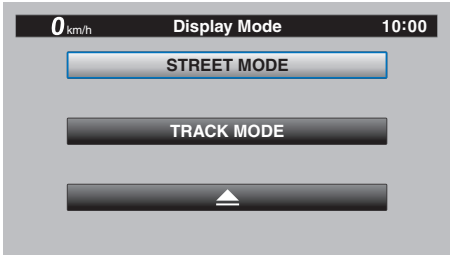
ディスプレイモードには、ストリートモードとトラックモードの 2 種類があります。

ディスプレイモードの設定

1. メニュー画面から “Display Mode” を選択します。



2. “STREET MODE” または “TRACK MODE” を選択します。(または三角マークを選択して終了します。)



3. ホイールスイッチを長押しして設定画面を抜け、他のモジュールを選択します。

“YRC Setting”

このモジュールでは、4 つの YRC モード（MODE-A、MODE-B、MODE-C、MODE-D）の、YRC 項目（PWR、TCS、SCS、LCS、QSS、LIF、EBM、BC）の設定値を調整（もしくは ON/OFF）することでカスタマイズできます。YZF-R1M は、ERS モードの選択と設定値の調整もできます。

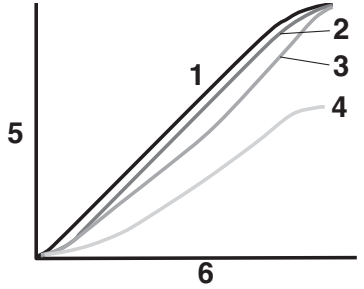
要　点

- トラクションコントロールシステムには 9 つの設定レベルがあり、ERS には 6 つのモードがあります。
- 選択できる設定値やモードが多く、一度に全てを表示できない場合は、スクロールバーが表示され、他にも選択肢があることを示します。

4

PWR

最もアグレッシブなスロットルレスポンスを得るにはPWR-1を、よりスムーズなスロットル・エンジンレスポンスを得るには PWR-2 または PWR-3 を、雨天時や弱めのエンジン出力が望まれる場合は PWR-4 を選択します。



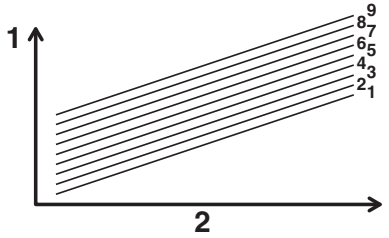
1. PWR 1
2. PWR 2
3. PWR 3
4. PWR 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

トラクションコントロールシステム

このモデルは、可変トラクションコントロールシステムを装備しています。各設定、車両がより傾くほどトラクションコントロール（システムの介入）の量が大きくなります。設定レベルは 9 段階あり、レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル 9 で最大になります。

要　点

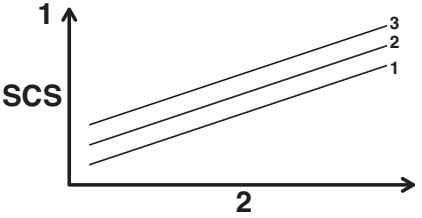
- トラクションコントロールシステムは、メイン画面からのみモードスイッチを使用することで、オン／オフを切り替えることができます。
- トラクションコントロールシステムをOFFにすると、SCS、LCS、LIF も OFF にセットされ、調整ができなくなります。トラクションコントロールシステムを再びオンにするとトラクションコントロールに関連するこれらの項目は、以前の設定レベルに戻ります。



1. システム介入量
2. リーンアングル

SCS

SCS は OFF または 1、2、3 に設定でき、OFF にするとスライドコントロールシステムはオフになります。レベル 1 はシステムの介入量が最小で、レベル 3 で最大になります。



1. システム介入量
2. 横すべり

LCS

LCS は 1、2 または OFF に設定できます。レベル 1 に設定すると、スロットルグリップを全開に回してもエンジン回転数が 9000 r/min を超えないようになります。レベル 2 に設定すると、エンジン回転数が 8000 r/min を超えないようになります。OFF にすると LCS 機能はオフになります。（LCS アイコンは表示されず、LCS を起動できません。）
選択されている YRC モードで LCS のレベルを 1 または 2 に設定すると、メイン画面の LCS アイコンがグレーで表示され、LCS が使用可能であることを示します。モードスイッチを使用し、ローンチコントロールシステムを起動するとLCSアイコンは白色に変わります。

要　点

LCS は LIF システムと関連して作動します。LIF が OFF の場合、LCS は使用できません。

クイックシフター

クイックシフターは QS▲ （シフトアップ）と QS▼ （シフトダウン）に分かれています。QS ▲と QS▼は連動しておらず、個別にオンまたはオフを設定できます。

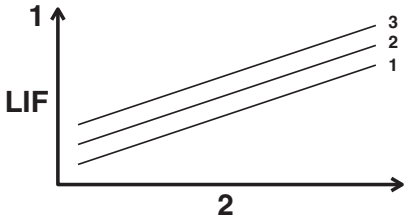
QS ▲は 1、2 または OFF に設定できます。レベル 1 は最大の加速を得られるように、レベル 2 はスロットル開度が半分以下でスムーズにシフトするように設計されています。シフトアップまたはシフトダウン機能をオフにした場合、その方向へシフトチェンジする時には、クラッチレバーを使用する必要があります。

要　点

- QS ▲のレベル 1: トラックまたはスポーティー走行向けの設定です。
- QS ▲のレベル 2: ツーリングまたは街乗り走行向けの設定です。

LIF

LIF は 1、2、3 または OFF に設定できます。レベル 3 に設定すると、ホイールの浮き上がりを最も強く抑制し、レベル 1 ではシステムの介入量が最小になります。OFF に設定すると LIF はオフになり、選択されている YRC モードで LCS もオフになります。



1. システム介入量
2. 前輪の浮き上がり

EBM

このシステムには 3 つの設定があります。レベル 1 に設定すると、エンジンブレーキマネージメントの介入が最小となり、エンジンブレーキの効きは最大になります。レベル 3 ではシステムの介入が最大となり、エンジンブレーキの効きは最小になります。

BC

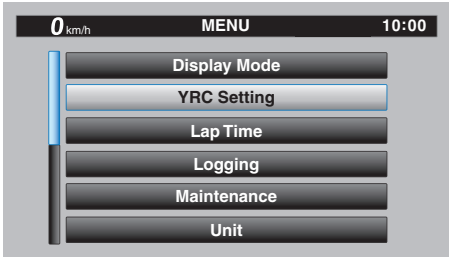
標準の ABS のみが必要な場合は、BC1 を選択します。BC2 を選択すると、ブレーキコントロールシステムがコーナリング中にブレーキ圧を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。

要　点

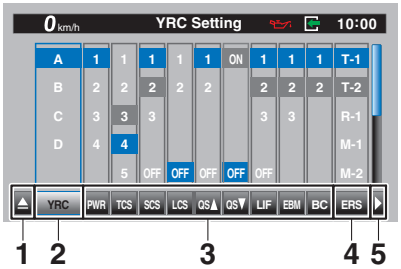
熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC2 のブレーキシステムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。

YRC モードのカスタマイズおよび YRC 項目の調整

1. メニュー画面から、“YRC Setting” を選択します。

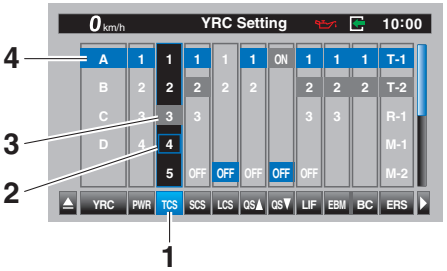


2. “YRC　Setting” 画面が表示され、YRC モードボックス “YRC” がハイライトされます。ホイールスイッチを短押しして ボックスに入り、YRC モード（A、B、C、D）のうち調整したいものを選択します。



1. 三角マーク
2. YRC モードボックス
3. YRC 項目
4. ERS モード（YZF-R1M）
5. ERS メニューへ（YZF-R1M）

3. 調整したい YRC 項目 PWR、TCS、SCS、LCS、QS ▲、QS ▼、LIF、EBM、BC、ERS (YZF-R1M) を選択し、ホイールスイッチを回して設定レベルを調整します。



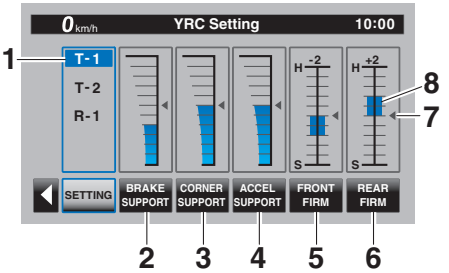
1. YRC 項目
2. 現在設定値
3. 工場設定値
4. YRC モード

要　点

- YRC 項目が選択されると、現在の設定レベルが青枠で表示され、工場出荷時の標準設定がグレーのボックスで表示されます。
- 工場出荷時の標準設定は、選択した　YRC モードにより異なります。

4. 他の YRC モードや個々の YRC 項目をカスタマイズするには、手順 2 から繰り返します。設定が終わったら、左端の三角マークを選択してメニュー画面に戻ります。または、YZF-R1M の場合は、“▶”マークを選択して ERS モードの詳細設定に移ります。

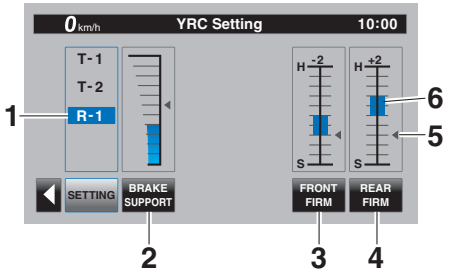
ERS (YZF-R1M)



1. ERS モード
2. ブレーキングサポートレベル
3. コーナリングサポートレベル
4. 加速サポートレベル
5. フロント減衰力
6. リヤ減衰力
7. 工場設定値
8. 現在設定値

ERS は、3 つのセミアクティブ自動設定モード（T-1、T-2、R-1）と 3 つの手動設定モード（M-1、M-2、M-3）があります。自動モードが選択されると、SCU は走行状態に基づき圧側・伸側減衰力を調整します。スプリングプリロードの調整は、全てのモード、モデルにおいて手動で行う必要があります。（4-34 ページ、4-37 ページ参照）
トラック走行向けの T-1、T-2 では、次の設定を調整できます。
BRAKE SUPPORT: ノーズダイブ（ブレーキをかけたときのフロントの沈み込み）を低減します。

CORNER SUPPORT: スムーズなコーナリングのために、減衰力を強くし、車体の姿勢変化を抑制します。リヤホイールのグリップを高めるにはこの設定を下げます。
ACCEL SUPPORT: スクワット（加速によるリヤの沈み込み）を低減します。
FRONT FIRM: フロントサスペンションの減衰力を強く “H” または弱く “S” します。
REAR FIRM: リヤサスペンションの減衰力を強く “H” または弱く “S” します。

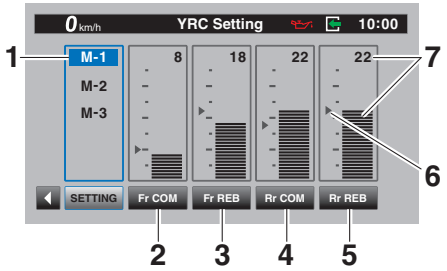


1. ERS モード
2. ブレーキングサポートレベル
3. フロント減衰力
4. リヤ減衰力
5. 工場設定値
6. 現在設定値

一般道走行向けの R-1 では、次の設定を調整できます。
BRAKE SUPPORT: ノーズダイブ（ブレーキをかけたときのフロントの沈み込み）を低減します。
FRONT FIRM: フロントサスペンションの減衰力を強く “H” または弱く “S” します。
REAR FIRM: リヤサスペンションの減衰力を強く “H” または弱く “S” します。

要　点

- T-1　は、スリックタイヤを使用してのトラック走行向けに設定されています。
- T-2 は、ストリートタイヤを使用してのトラック走行向けに設定されています。
- R-1 は、ストリートタイヤを使用しての一般道走行向けに設定されています。



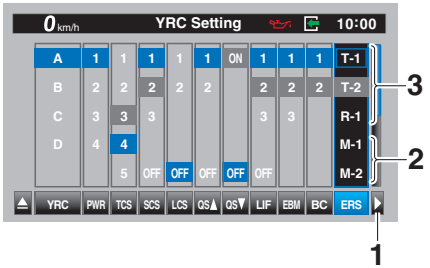
1. ERS モード
2. フロント圧側減衰力
3. フロント伸側減衰力
4. リヤ圧側減衰力
5. リヤ伸側減衰力
6. 工場設定値
7. 現在設定値

手動モード M-1、M-2、M-3 では、次の設定を調整できます。
Fr COM: フロント圧側減衰力
Fr REB: フロント伸側減衰力
Rr COM: リヤ圧側減衰力
Rr REB: リヤ伸側減衰力

要　点

- M-1　は、スリックタイヤを使用してのトラック走行向けに設定されています。
- M-2 は、ストリートタイヤを使用してのトラック走行向けに設定されています。
- M-3 は、ストリートタイヤを使用しての一般道走行向けに設定されています。

ERS モード設定の調整

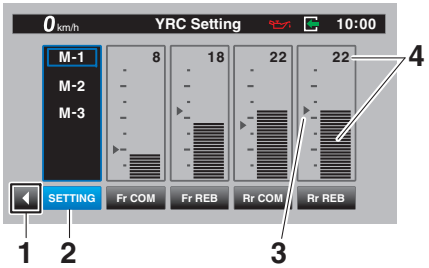


1. ERS メニューへ
2. 手動モード
3. 自動モード

要　点

ERS設定メニューは自動モードと手動モードに分かれており、それぞれ個別にアクセスします。ERS 設定メニューに移動する前に、現在の ERS モードが調整したいモード（自動または手動）になっているか “YRC Setting” 画面にて確認してください。

1. ERS 右側の “▶” マークを選択します。
2. 画面表示が該当するモードの設定画面に切り替わり、ERS モード選択ボックス “SETTING” がハイライトされます。ホイールスイッチを短押ししてボックスに入り、調整する ERS モードを選択します。



1. YRC 設定メニューへ
2. ERS モード選択ボックス “SETTING”
3. 工場設定値
4. 現在設定値

3. 調整したいサスペンション項目を選択し、ホイールスイッチを回して設定レベルを調整します。

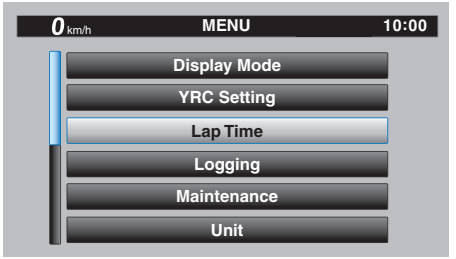
要　点

タイプ（自動または手動設定モード）に関わらず、すべての ERS モードは独立しています。一つのモードで行われた設定変更は、別のモードには転送されません。

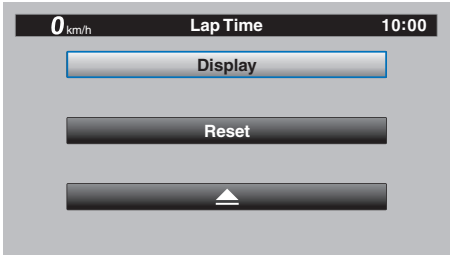
4. 同じタイプの他の ERS モードを調整するには、手順 2 から繰り返します。タイプを切り替えるか、調整が終了したら、“◀” マークを選択してメインの “YRC Setting” 画面に戻ります。

“Lap Time”

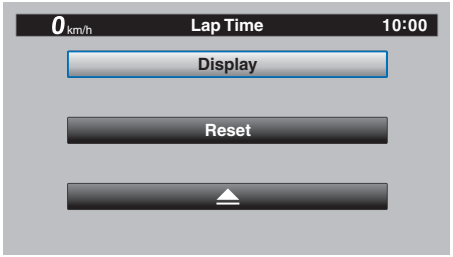
このモジュールでは、記録されたラップタイムの表示および削除が行えます。記録された中で、最速ラップおよび平均ラップタイムがディスプレイ上部に表示されます。ホイールスイッチでスクロールすることで、すべてのラップタイムを確認できます。上位 3 位までの最速ラップは、シルバーでハイライト表示されます。メモリーには最大 40 ラップまで記録できます。40 を超えると、古いラップ（ラップ 1 から）が自動的に上書きされます。

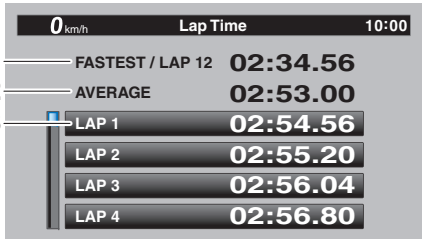


このモジュールには 2 つのオプションがあります。
“Display” では、記録されたラップタイムを確認できます。
“Reset” では、記録されたラップタイムを削除できます。



記録されたラップタイムの確認
“Display” を選択します。

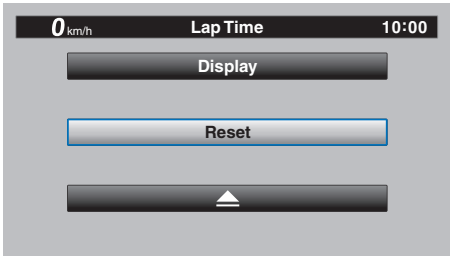




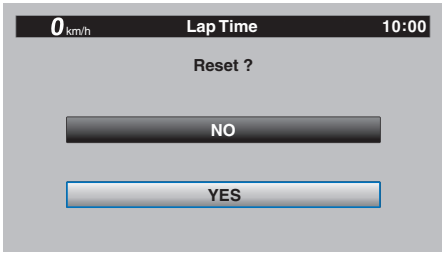
1. 最速ラップ
2. 平均ラップタイム
3. ラップタイムデータ

記録されたラップタイムの削除

1. “Reset” を選択します。



2. YES を選択すると全てのラップタイムデータを削除します。（NO を選択すると削除せずに前の画面に戻ります。）

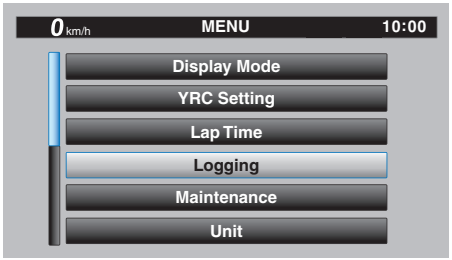


“Logging”（CCU 搭載時）

車両および走行データを記録するすることができ、このデータは、スマートデバイスからアクセスできます。

記録の開始および停止

1. メニュー画面から“Logging”を選択します。



要　点

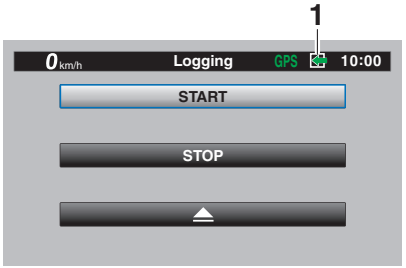
CCU が搭載されていない場合、“Logging” モジュールは選択できません。

2. “START” を選択して、記録を開始します。

要　点

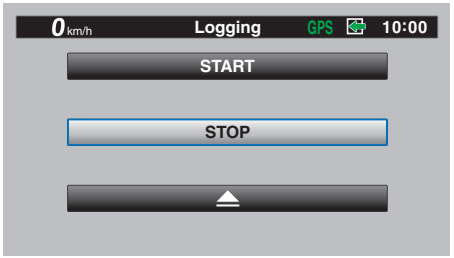
ロギングアイコンの矢印が緑色で表示されます。

4



1. ロギングアイコン（CCU 搭載時）

3. 記録を停止するには、“STOP” を選択するか、車両の電源をオフにします。



要　点

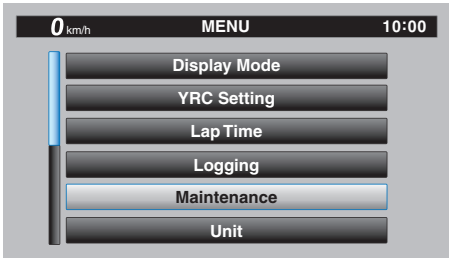
ロギング機能は、車両起動時に自動的に使用可能になります。

“Maintenance”

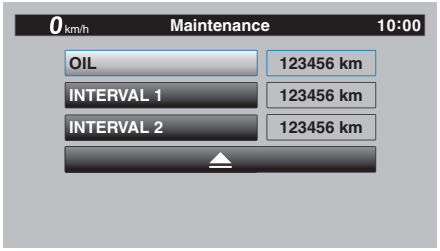
このモジュールでは、エンジンオイル交換時（OIL 項目を使用）からの距離と、ご自身で決めた 2 つの項目（INTERVAL 1 と INTERVAL 2 を使用）の走行距離を表示します。

メンテナンス項目のリセット

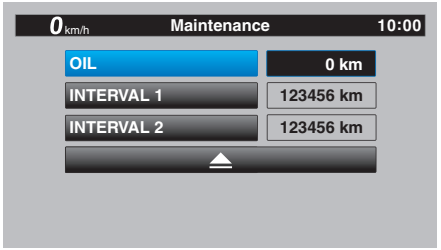
1. メニュー画面から“Maintenance”を選択します。



2. リセットしたい項目を選択します。



3. ホイールスイッチを長押しして、選択した項目をリセットします。



要　点

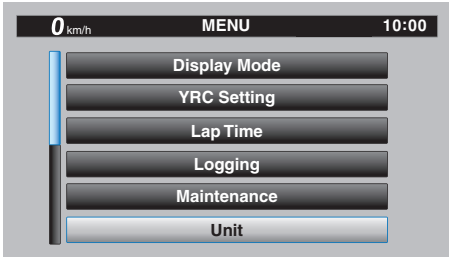
メンテナンス項目の名前は変更できません。

“Unit”

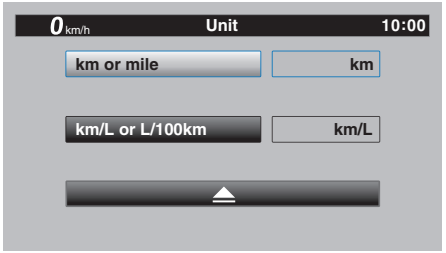
このモジュールでは、キロメートルとマイルの単位の切り替えができます。
キロメートルを選択しているとき、燃料消費単位は “km/L” または “L/100km” に切り替えることができます。マイルを選択しているときは、“MPG” が表示されます。走行前に必ずキロメートルになっていることを確認してください。

距離または燃料消費単位の設定

1. メニュー画面から “Unit” を選択します。



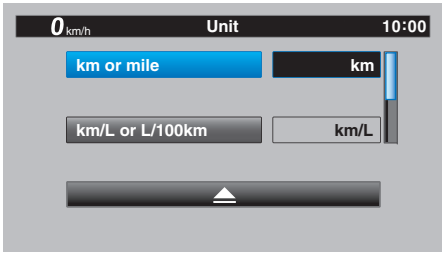
2. 距離または燃料消費単位の調整したい表示項目を選択します。



要　点

“km” を選択しているとき、燃料消費単位を “km/L” または “L/100km” に設定することができます。燃料消費単位の設定は以下の手順で設定してください。

3. 使用したい表示単位を選択します。



4. 三角マークを選択すると、設定が完了します。

“Wallpaper”

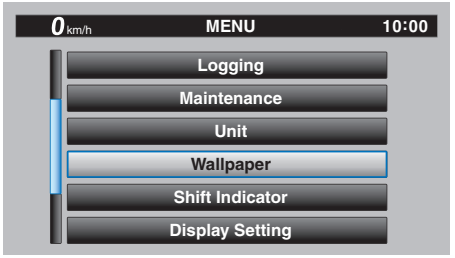
このモジュールでは、ストリートモードとトラックモードの背景色について、day・night それぞれを黒と白から選択できます。インストルメントパネルのフォトセンサーが明るさを検知し、自動的に day・night を切り替えます。フォトセンサーは、昼夜モードそれぞれにおいて、明るさも最適な状態に微調整します。



1. フォトセンサー

背景色の設定

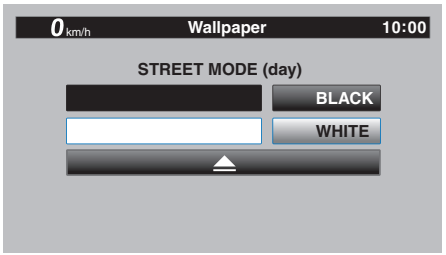
1. メニュー画面から “Wallpaper” を選択します。



2. 調整したいモードを選択します（昼間の設定は day を、夜間の設定は night を選択します）。



3. 背景色を選択します（黒は BLACK を、白は WHITE を選択します）。

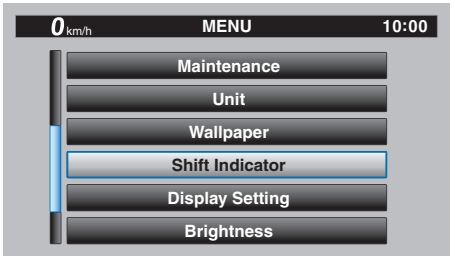


4. 三角マークを選択すると、設定が完了します。
5. 他の背景色を設定するには手順2から繰り返します。もしくは、三角マークを選択してモジュールを抜けます。

“Shift indicator”

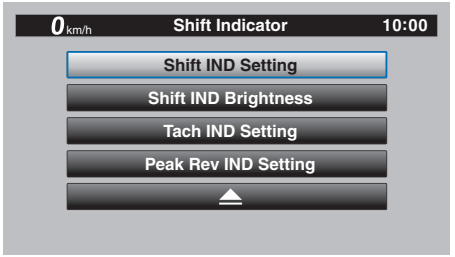
シフトインジケーターのモジュールには、次の項目があります。

モジュール	説明
Shift IND Setting	シフトタイミングインジケーターのパターンを、“ON”、“Flash”、“OFF” から選択し、何回転（r/min）でインジケーターランプが点灯もしくは消灯するかを設定します。
Shift IND Brightness	シフトタイミングインジケーターランプの明るさを調整します。
Tach IND Setting	タコメーターのカラー表示を “ON” と “OFF” から選択し、何回転（r/min）でタコメーターが緑もしくはオレンジになるかを設定します。
Peak Rev IND Setting	タコメーターの最大回転数ホールド表示を、“ON” もしくは “OFF” から選択します。

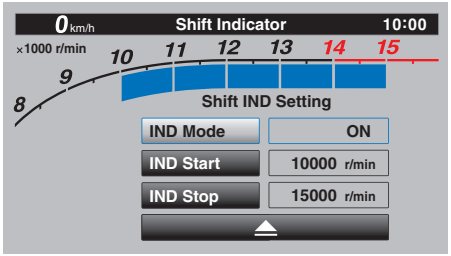


設定変更のしかた

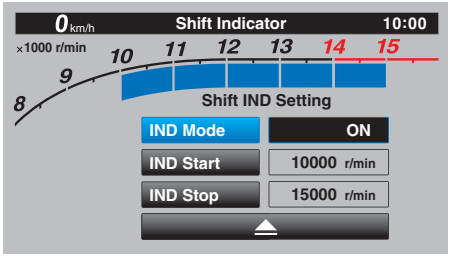
1. “Shift IND Setting” を選択します。



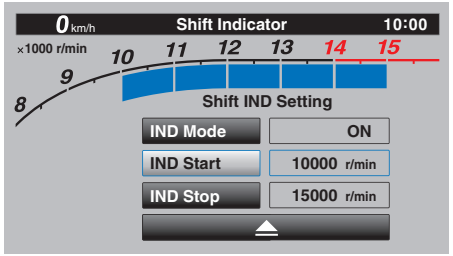
2. “IND Mode” を選択します。



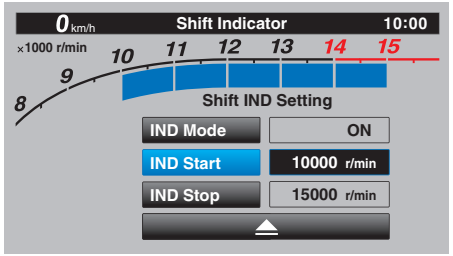
3. 設定したエンジン回転数に達したとき、インジケーターを常時点灯にするには “ON” を、消灯とするには “OFF” を、点滅させるには “Flash” を選択します。



4. “IND Start” を選択します。



5. ホイールスイッチを回し、インジケーターランプが点灯する回転数 (r/min) を設定します。“IND Start” の設定可能レンジは、8000–14800 r/min の間です。



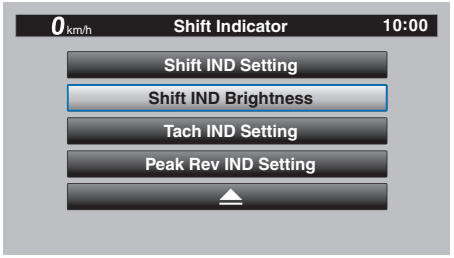
6. “IND Stop” を選択し、ホイールスイッチを回してインジケーターランプが消灯する回転数 (r/min) を設定します。“IND Stop” の設定可能レンジは、8500–15000 r/min の間です。

要　点

タコメーターの青い範囲は、現在設定されているシフトタイミングインジケーターランプの動作レンジを表します。

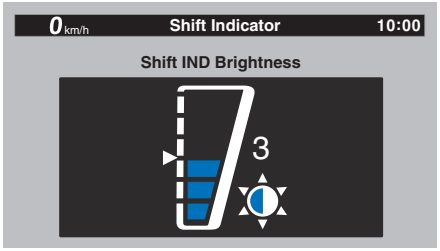
“Shift IND Brightness”

シフトタイミングインジケーターランプの明るさは、6 段階で調整できます。



“Shift IND Brightness” を選択し、ホイールスイッチを用いて設定を調整します。短押しして設定を確定し、終了します。

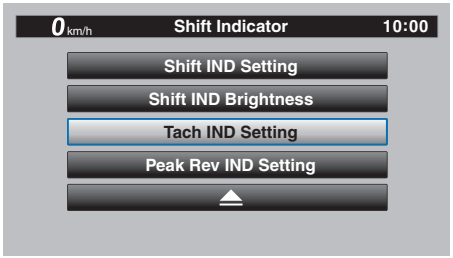
4



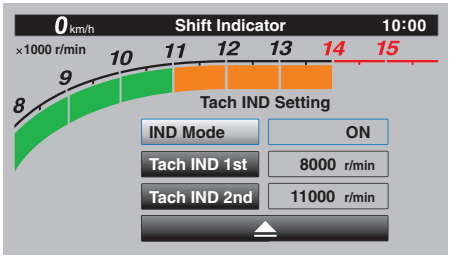
“Tach IND Setting”

このモジュールでは、タコメーターの色表示のオンもしくはオフが切り替えられます。オフにすると、タコメーターはレッドゾーン以下の全ての回転数（r/min）を白または黒で表示します（Wallpaper の設定によります）。オンにすると、中回転域から中高回転域にかけて、緑もしくはオレンジ色で表示させることができます。

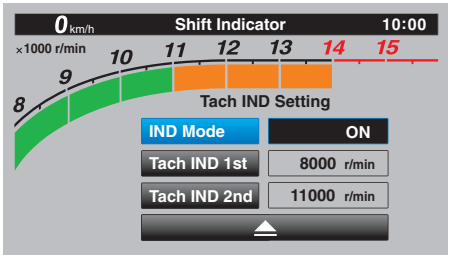
1. “Tach IND Setting” を選択します。



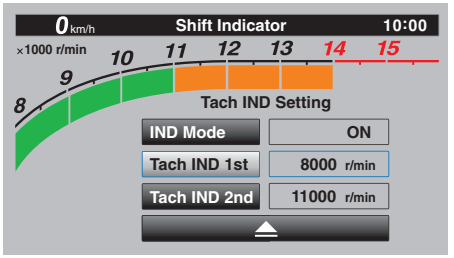
2. “IND Mode” を選択します。



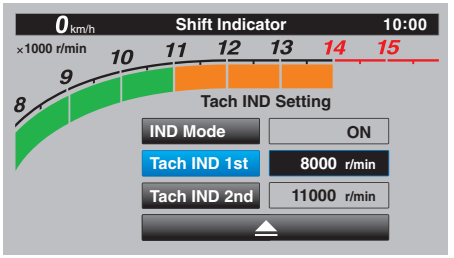
3. ONを選択しタコメーターの色表示を有効にします（もしくは OFF を選択し無効にします）。



4. “Tach IND 1st” を選択し、緑ゾーンの始点（r/min）を設定します。



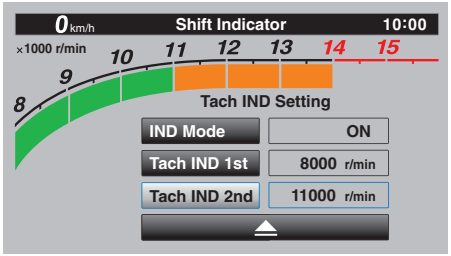
5. 始点（r/min）をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値（r/min）から “Tach IND 2nd” における設定値（もしくはレッドゾーンまで）が、自動的に緑色で表示されます。



要　点

緑色表示の始点は、8000–10000 r/min の間で設定できます。

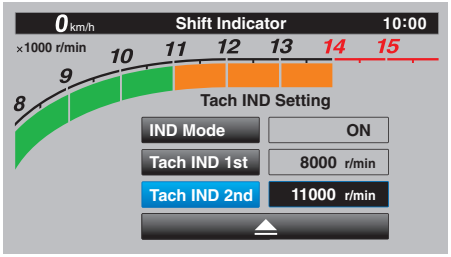
6. “Tach IND 2nd” を選択します。



7. オレンジ色表示の始点（r/min）をホイールスイッチを回して調整し、短押しします。設定した値（r/min）からレッドゾーンまでが、オレンジ色で表示されます。

要　点

オレンジ色表示の始点は、8000–14000 r/min の間で設定できます。

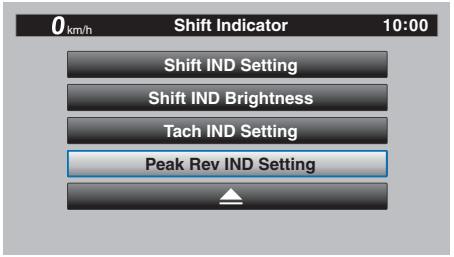


8. 三角マークを選択して、設定を完了します。

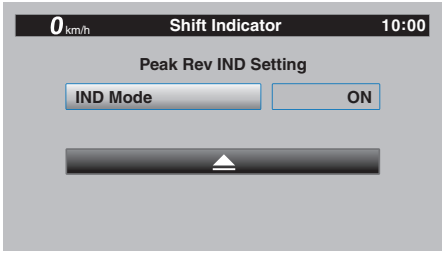
“Peak Rev IND Setting”

このモジュールでは、最大回転数ホールド表示のオンもしくはオフを切り替えられます。

1. “Peak Rev IND Setting” を選択します。



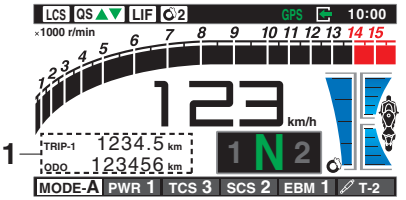
2. “IND Mode” を選択し、ON を選択して表示をオンにするか、OFF を選択して表示をオフにします。



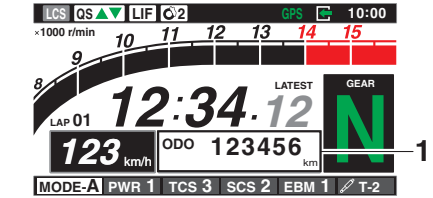
3. 三角マークを選択して、設定を完了します。

“Display Setting”

このモジュールでは、メイン画面に表示される情報ディスプレイ（TRIP-1、ODO、C. TEMP など）のグループ化が行えます。グループは 4 つあります。



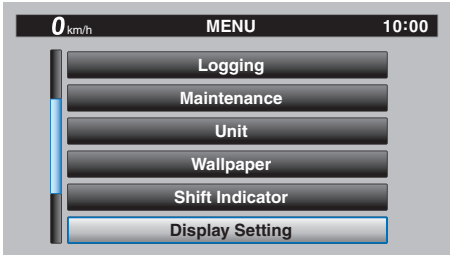
1. 情報ディスプレイ項目（ストリートモード）



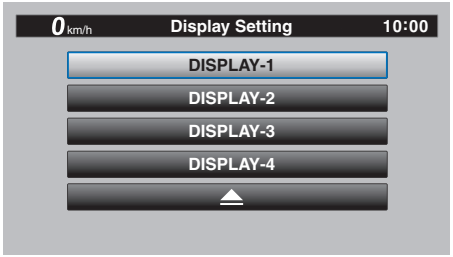
1. 情報ディスプレイ項目（トラックモード）

表示グループの設定のしかた

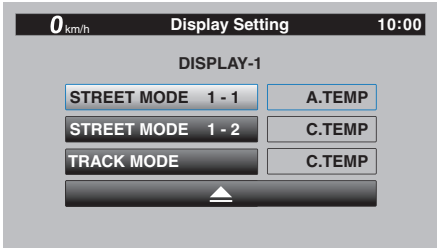
1. メニュー画面から“Display Setting”を選択します。



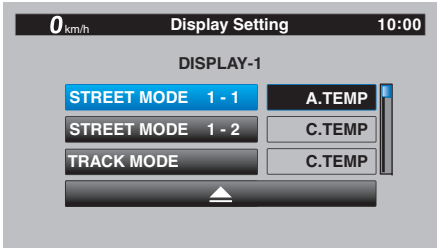
2. “DISPLAY-1”、“DISPLAY-2”、“DISPLAY-3”、“DISPLAY-4”が表示されます。



3. 例えば、“DISPLAY-1”を選択します。
4. “STREET MODE 1-1”を選択します。



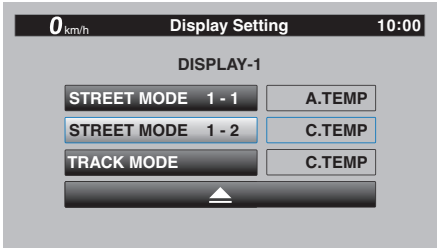
5. ホイールスイッチで表示させたい表示項目を選択します。



要　点

情報ディスプレイの項目は、次のとおりです。
A.TEMP: 気温
C.TEMP: 冷却水温
TRIP-1: トリップメーター 1
TRIP-2: トリップメーター 2
ODO: オドメーター
FUEL CON: 総燃料消費量
FUEL AVG: 平均燃料消費量
CRNT FUEL: 瞬間燃料消費量

6. “STREET MODE 1-2”もしくは“TRACK MODE”を選択し、残りの DISPLAY-1 グループの項目を設定します。



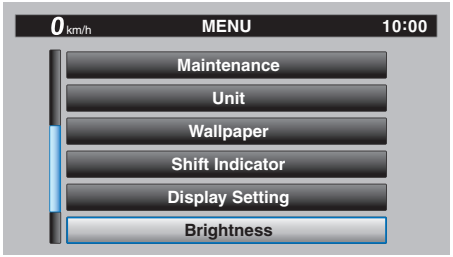
7. 三角マークを選択し、設定を完了します。他の表示グループを設定するには、手順 3 から繰り返します。

“Brightness”

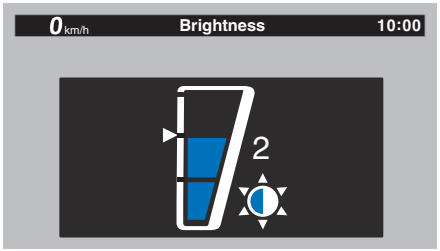
このモジュールでは、ディスプレイ画面の標準の明るさを調整できます。

明るさの設定のしかた

1. メニュー画面から“Brightness”を選択します。



2. ホイールスイッチで好みの明るさに調節し、短押しして設定を確定させます。

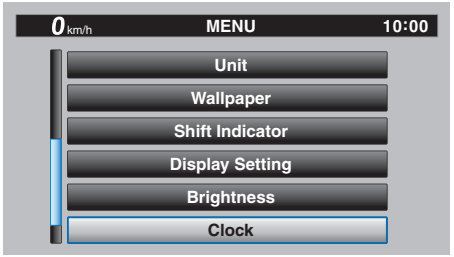


“Clock”

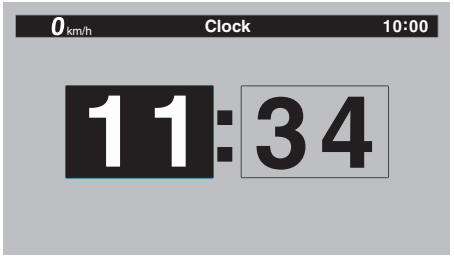
このモジュールでは、時刻設定を行えます。

<u>時刻設定のしかた</u>

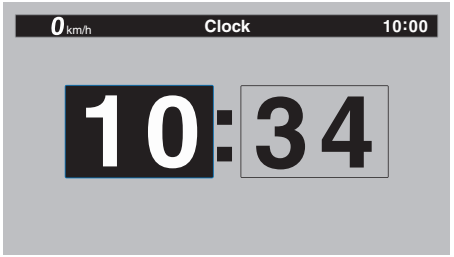
1. メニュー画面から “Clock” を選択します。



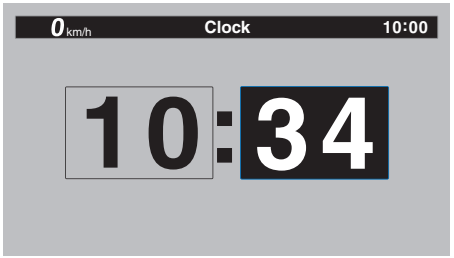
2. “Clock” が選択されると、「時」がハイライト表示されます。



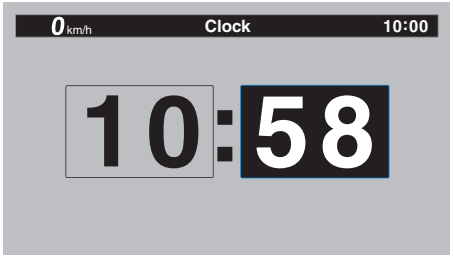
3. ホイールスイッチを回転・短押しし、「時」を設定します。



4. 「分」がハイライト表示されます。



5. ホイールスイッチを回転・短押しし、「分」を設定します。



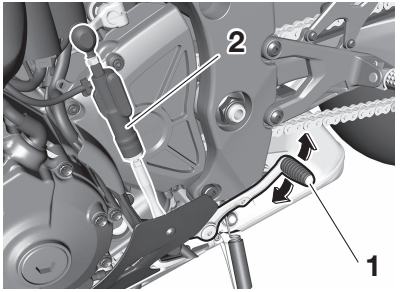
6. ホイールスイッチを短押しし、メニュー画面に戻ります。

“All Reset”

このモジュールでは、オドメーターと時計を除き、全ての項目を工場出荷時の設定に戻します。
YESを選択してホイールスイッチを短押しすると、全ての項目がリセットされ、自動的にメニュー画面に戻ります。

JAU83692

シフトペダル



1. シフトペダル
2. シフトロッド

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上に動かし、シフトダウンするには、シフトペダルを下に動かします。(6-2 ページ参照)
シフトロッドには、クイックシフターの一部であるシフトセンサーが装備されています。シフトセンサーは、シフトペダルを動かしたときの上下の動きと入力の強さを読み取ります。

要　点

意図しないギヤチェンジを防ぐため、クイックシフターは不明確な入力信号を無視するようプログラムされています。ギヤチェンジするときは、素早く十分な強さで操作してください。

JAU88462

ブレーキコントロール (BC)

ブレーキコントロールは、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを使用し、ホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、BC1またはBC2の2つの設定ができます。
BC1 は、標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大の効果を得られるように設計されています。
ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキコントロールが作動したとき、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。

JWA15363

⚠ 警 告

- **ABS　は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

BC2 は、標準の ABS 制御に加えて、コーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。

JWA20891

⚠警 告

ブレーキコントロールは、適切な走行やブレーキ技術に代わるものではありません。過度な速度により制動距離が長くなることや、滑りやすい路面でのスリップを防ぐことはできません。

ABS は ABS ECU（ABS エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ABS ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

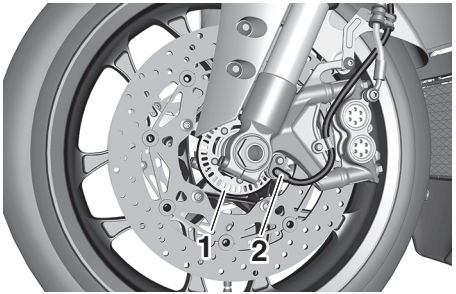
要 点

ABS は、走行速度が 10 km/h を超えると自己診断を行います。自己診断中、ハイドロリックコントロールユニットからクリック音が聞こえ、ブレーキレバーやペダルに振動が感じられる場合がありますが、故障ではありません。

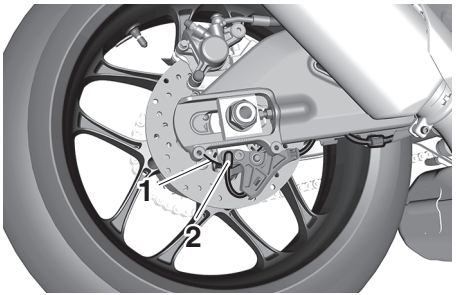
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

JAU13077

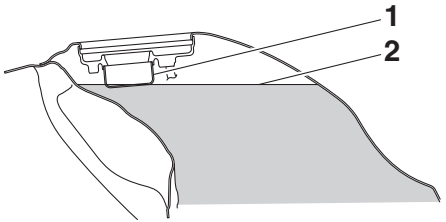
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠警 告

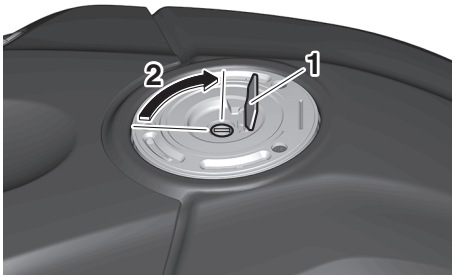
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
　無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
　約 17 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

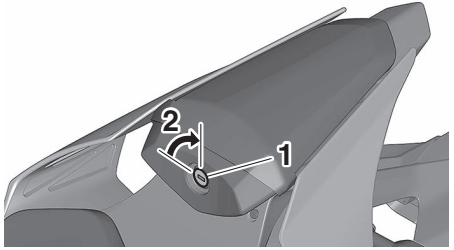
JAU79902

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。

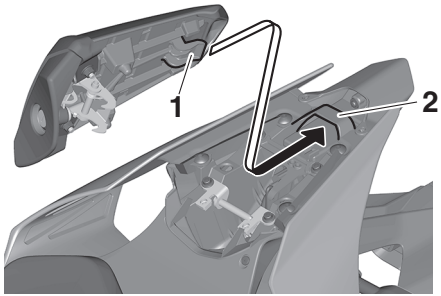


1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を少し持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの後部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



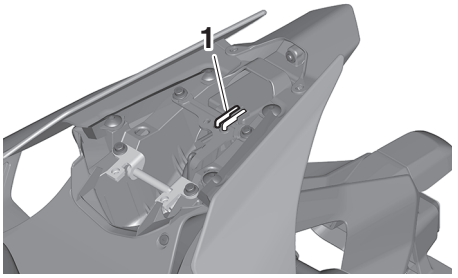
1. 突起
2. シートホルダー

2. シートロックのキーを時計方向に回しながら、タンデムシートの前部を押し、タンデムシートをロックします。
3. キーを抜き取ります。

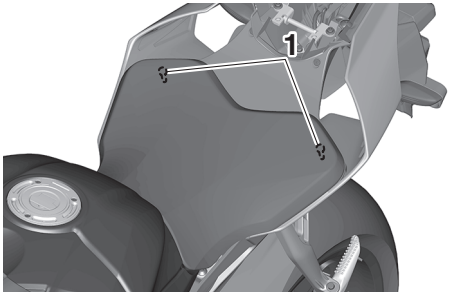
ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外します。
2. ライダーシート後方を引き上げ、六角レンチを使用して、ライダーシート下側のボルトを取り外します。



1. 六角レンチ

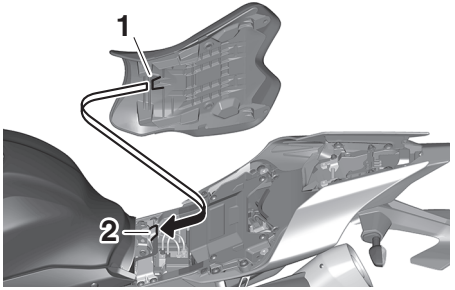


1. ボルト

3. ライダーシートを取り外します。

ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシートにある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

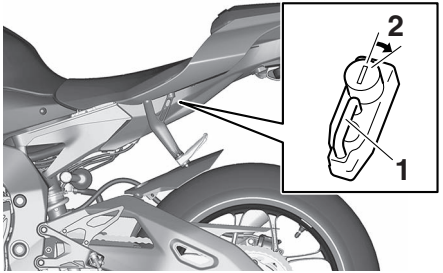
2. 六角レンチを使用してボルトを締め付けます。
3. 六角レンチを元の位置に戻します。
4. タンデムシートを取り付けます。

要　点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要　点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU91051

書類入れ

車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、二つ折りにし、書類入れ（収納用ポーチ）に保管してください。書類入れは書類トランクに保管してください。（4-34 ページ参照）

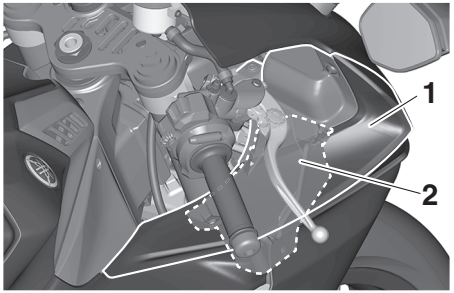
JCA28461

注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。

JAU66920

書類トランク



1. カバー B
2. 書類トランク

書類トランクはカバー B の下にあります。(7-2 ページ参照)
取扱説明書や車検証、保険証、メンテナンスノートなどの書類を書類トランクに保管するときは、濡れないようにビニール袋に入れてください。また、洗車のとき、書類トランクに水が入らないようにしてください。

JCA22540

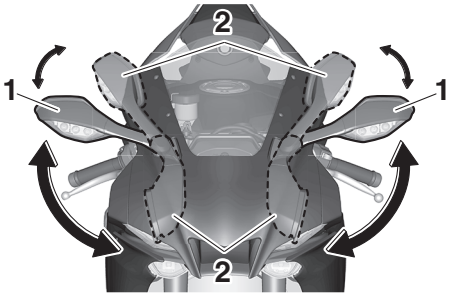
注 意

書類トランク内に、熱の影響を受けやすい物は入れないでください。トランク内は、エンジンの熱や直射日光などで温度が高くなります。

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 乗車するときの位置
2. 駐車するときの位置

JWA14372

⚠警 告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

JAU66478

フロントフォークの調整

JCA22472

注 意

- **サスペンション調整時には、アルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を払ってください。**
- **サスペンションの内部構造へのダメージを避けるため、最大もしくは最小の設定値を超えて回さないでください。**

YZF-R1

フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスター、圧側減衰力アジャスターが装備されています。

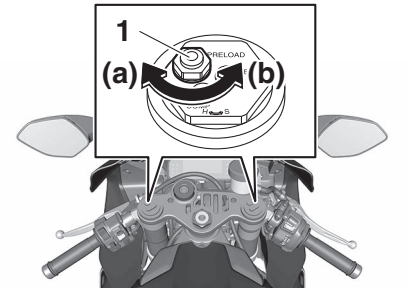
JWA10181

⚠警 告

左右のフォークは同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

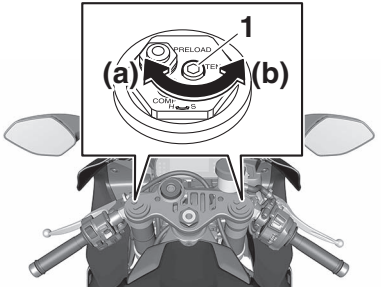
スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a) 方向へ 0 回転
標準：
(a) 方向へ 6 回転
最大（ハード）：
(a) 方向へ 15 回転

要　点

アジャスターを (a) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

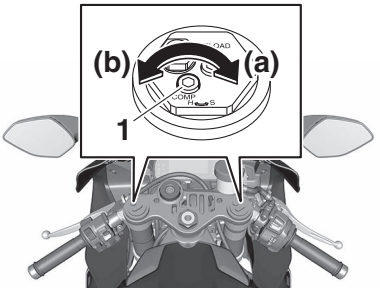
伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 14 段
標準：
(b) 方向へ 7 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 23 段
標準：
(b) 方向へ 17 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

YZF-R1M

このモデルには、ÖHLINS の電子レーシングサスペンションが装備されています。圧側減衰力、伸側減衰力は、電子的に調整されます。(4-17 ページの ERS 項目を参照ください)

JWA20900

⚠警　告

フロントフォークには高圧窒素ガスが封入されています。フロントフォークを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **フロントフォークを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **ガスシリンダー本体を分解しないでください。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したフロントフォークを、ご自分で処分しないでください。フロントフォークの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**

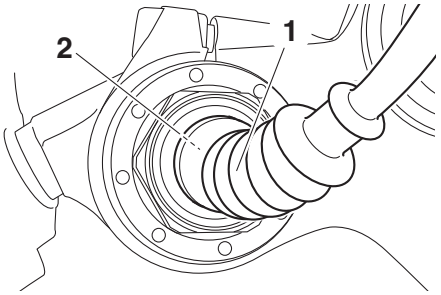
スプリングプリロード

1. 車両の電源をオフにします。
2. 各カプラーのゴムカバーを上にずらします。
3. 左右のフロントフォークのカプラーを外します。

JCA22770

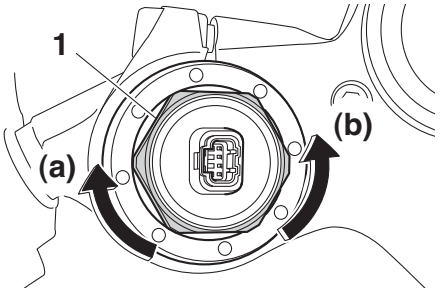
注　意

カプラーの損傷を防ぐため、鋭利な道具を用いたり、過度な力を加えないでください。



1. ゴムカバー
2. カプラー

4. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a) 方向へ 0 回転
標準：
(a) 方向へ 3 回転
最大（ハード）：
(a) 方向へ 15 回転

4

要　点

アジャスターを (a) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

5. 左右のフォークのカプラーを接続します。
6. ゴムカバーを元の位置に戻します。

JAU66499

リヤクッションの調整

JWA10222

⚠警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。
- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JWA12441

⚠警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

YZF-R1

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスター、圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）および圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）が装備されています。

JCA10102

注 意

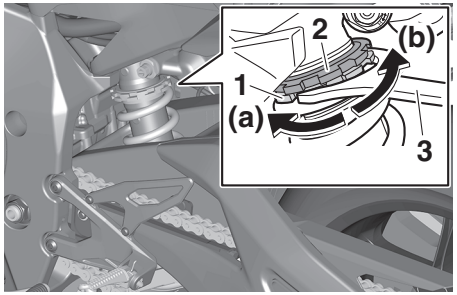
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

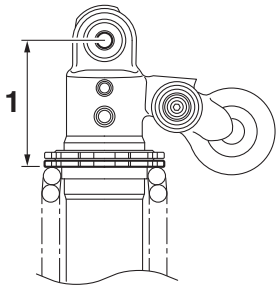
1. ロックナットをゆるめます。
2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは大きくなり、短くすると小さくなります。

要　点

サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。



1. スプリングプリロードアジャスター
2. ロックナット
3. 調整レンチ



1. セット長 A

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 77.5 mm
標準：
セット長 A = 78.5 mm
最大（ハード）：
セット長 A = 85.5 mm

3. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

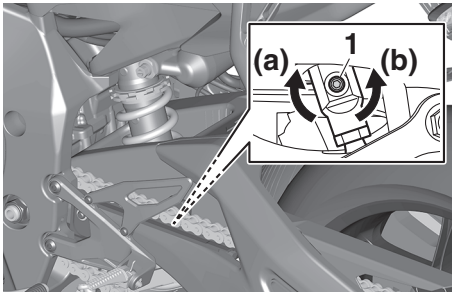
JCA10122

注 意

ロックナットはアジャスターにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締め付けてください。

締め付けトルク：
ロックナット：
28 N·m (2.8 kgf·m)

伸側減衰力
減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

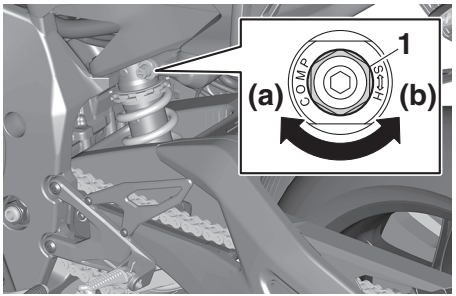
伸側減衰力：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 23 段
標準：
(b) 方向へ 12 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

圧側減衰力アジャスター（高速減衰時用）
減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



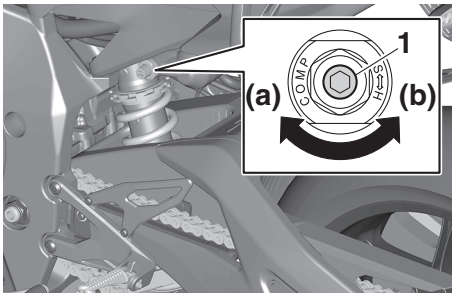
1. 高速減衰時用圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力（高速減衰時用）：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 5.5 回転
標準：
(b) 方向へ 3 回転
最大（ハード）：
(b) 方向へ 0 回転

要　点

アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力アジャスター（低速減衰時用）
減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。
減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 低速減衰時用圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力（低速減衰時用）：
最小（ソフト）：
(b) 方向へ 18 段
標準：
(b) 方向へ 12 段
最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要　点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。またサスペンションを損傷するおそれがあります。調整範囲内で使用してください。

YZF-R1M

このモデルには、ÖHLINS の電子レーシングサスペンションが装備されています。

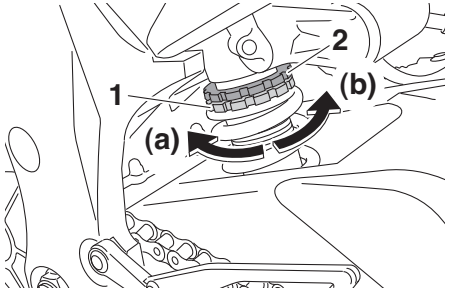
圧側減衰力、伸側減衰力

圧側減衰力、伸側減衰力は、電子的に調整されます。(4-17 ページの ERS 項目を参照ください)

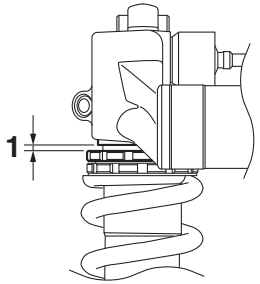
スプリングプリロード

スプリングプリロードの調整は、手動で行います。

1. ロックナットをゆるめます。
2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは大きくなり、短くすると小さくなります。
   - サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。



1. スプリングプリロードアジャスター
2. ロックナット



1. セット長 A

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
セット長 A = 0.0 mm
標準：
セット長 A = 4.0 mm
最大（ハード）
セット長 A = 9.0 mm

3. ロックナットを規定トルクで締め付けます。

JCA10122

注 意

ロックナットはアジャスターにあたるまで締め込んでから、規定のトルクで締め付けてください。

締め付けトルク：
ロックナット：
25 N·m (2.5 kgf·m)

JCA10102

注 意

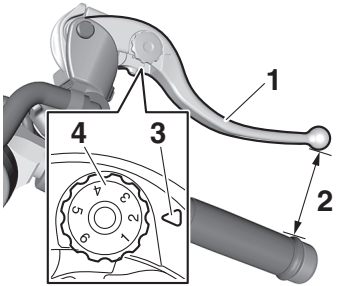
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

4

JAU45543

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 6 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

要　点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU70642

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU57952

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。
イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

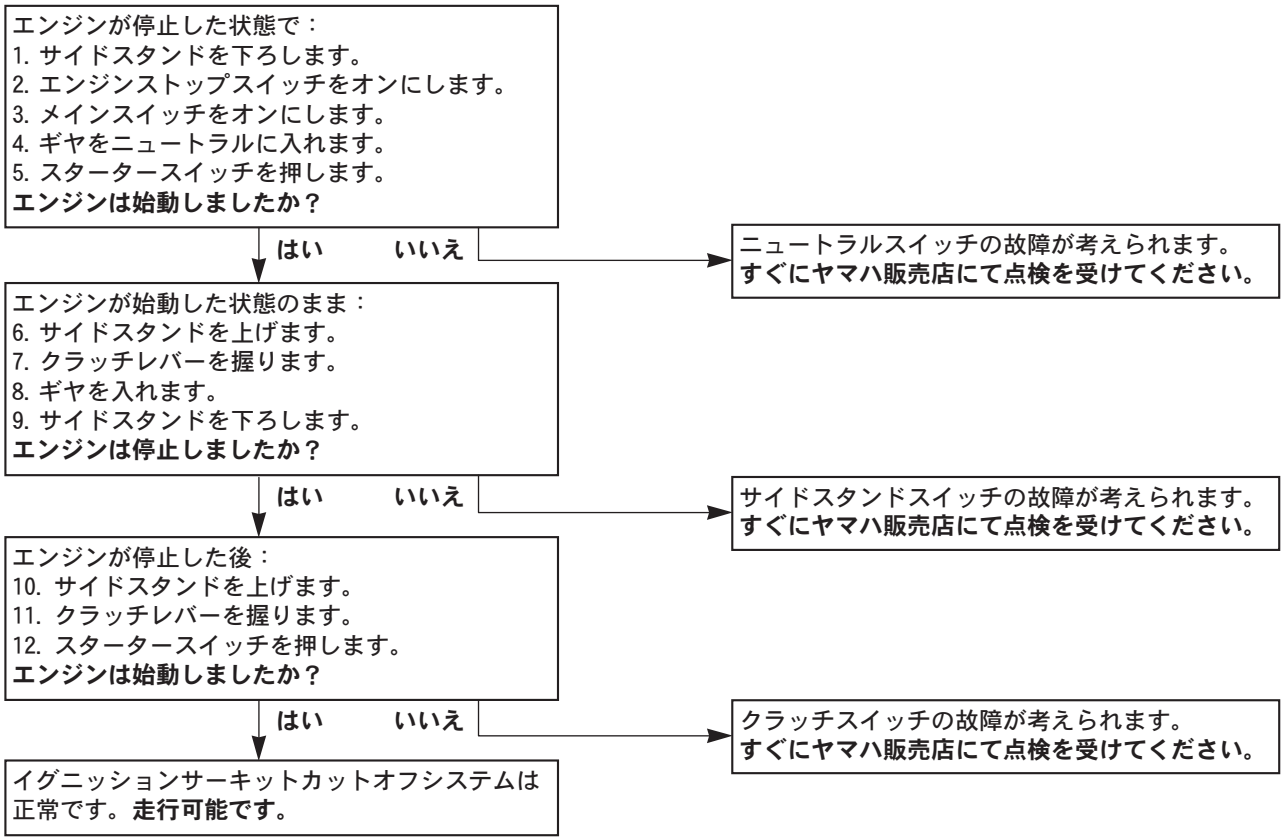
要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、4-2 ページ、4-3 ページを参照してください。

JWA11541

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。


エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは
正常です。走行可能です。

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 8400 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU78763

エンジン始動

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、4-42 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを “ON” にし、スターター／エンジンストップスイッチが “⎔” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “⏲” 側を押して、エンジンを始動します。

要　点

スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU68221

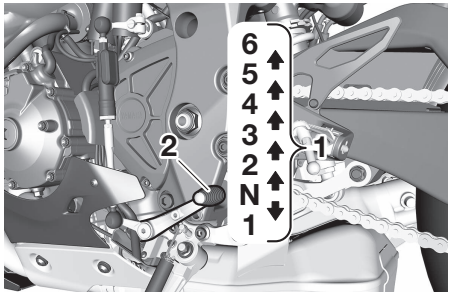
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU67084

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

ギヤを切り替えることで、発進時、加速時、登坂時などに必要なエンジン出力量をコントロールします。
素早くシフトアップするためには、クイックシフターを ON にします。詳細は、3-3 ページと 4-16 ページのクイックシフターの項目をご参照ください。

JCA22523

注 意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。
- ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クイックシフターを用いる場合を除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度
1 速 : 0 km/h–150 km/h
2 速 : 20 km/h–180 km/h
3 速 : 25 km/h–180 km/h
4 速 : 30 km/h–180 km/h
5 速 : 35 km/h–180 km/h
6 速 : 40 km/h 以上

シフトダウン速度
6 速 → 5 速 : 180 km/h 以下
5 速 → 4 速 : 180 km/h 以下
4 速 → 3 速 : 170 km/h 以下
3 速 → 2 速 : 140 km/h 以下
2 速 → 1 速 : 120 km/h 以下

JWA20720

⚠警 告

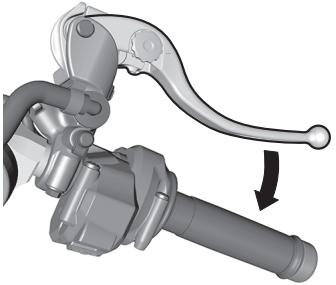
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

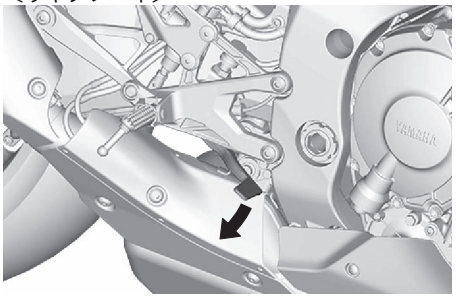
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JCA26500

注 意

- **上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。**
- **不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。**

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

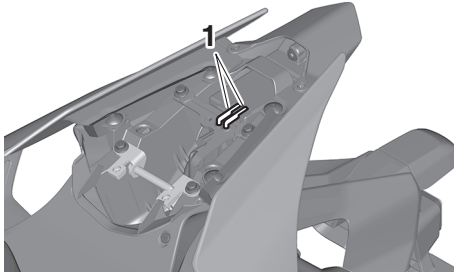
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85240

サービスツール



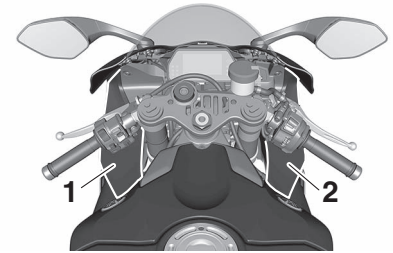
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

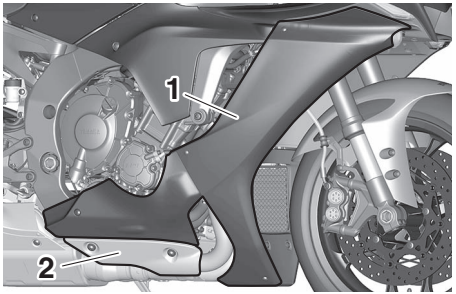
JAU91040

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A
2. カバー B

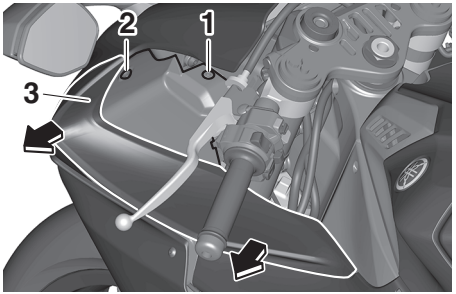


1. カバー D
2. カバー C

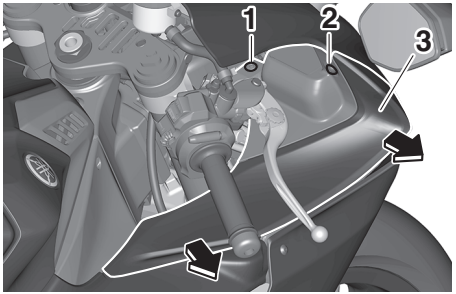
カバー A ／ B

カバーの取り外しかた

ボルトとクイックファスナーを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. クイックファスナー
2. ボルト
3. カバー A

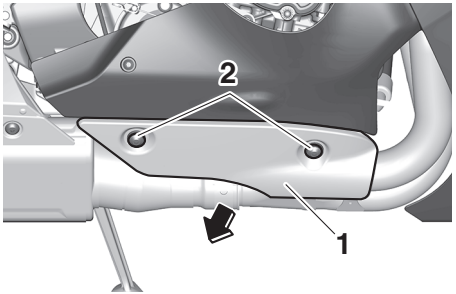


1. クイックファスナー
2. ボルト
3. カバー B

カバーの取り付けかた
元の位置にカバーを取り付け、ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

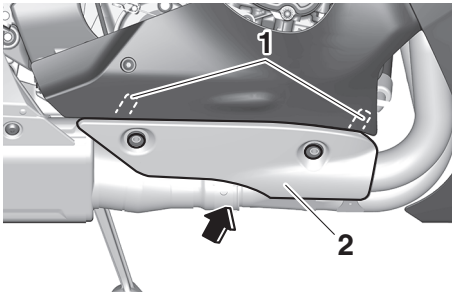
カバー C

カバーの取り外しかた
ボルトとワッシャーを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. カバー C
2. ボルト／ワッシャー

カバーの取り付けかた
1. 図のように突起をホルダーに差し込み、元の位置にカバーを取り付けます。

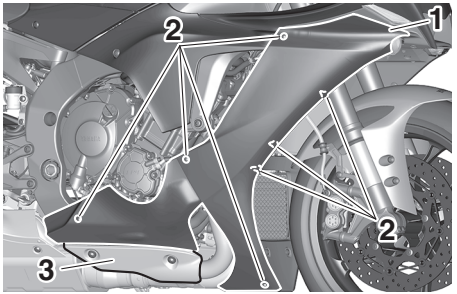


1. 突起
2. カバー C

2. ワッシャーとボルトを取り付けます。

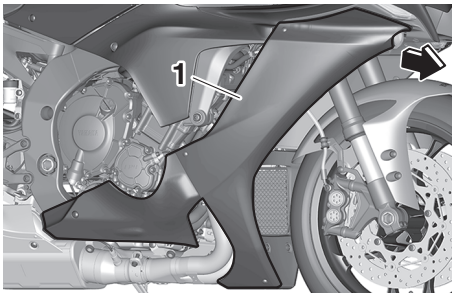
カバー D (YZF-R1)

カバーの取り外しかた
1. カバー C を取り外します。
2. クイックファスナーを取り外します。



1. カバー D
2. クイックファスナー
3. カバー C

3. 図のようにカバーを前側にずらして取り外します。



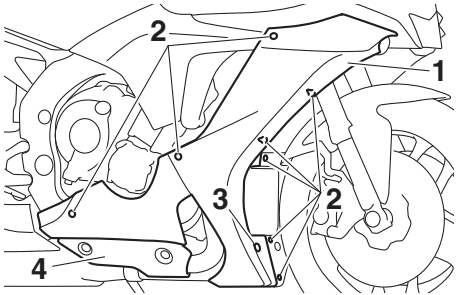
1. カバー D

カバーの取り付けかた
1. 元の位置にカバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。
2. カバー C を取り付けます。

カバー D (YZF-R1M)

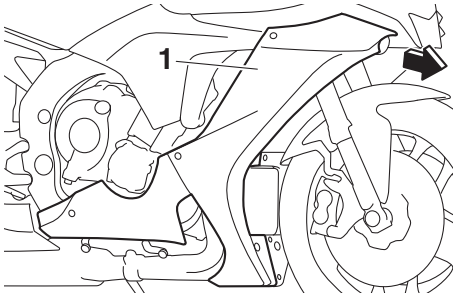
カバーの取り外しかた

1. カバー C を取り外します。
2. ボルトとカラー、クイックファスナーを取り外します。



1. カバー D
2. クイックファスナー
3. ボルトとカラー
4. カバー C

3. 図のようにカバーを前側にずらして取り外します。



1. カバー D

カバーの取り付けかた

1. 元の位置にカバーを取り付け、ボルトとカラー、クイックファスナーを取り付けます。
2. カバー C を取り付けます。

JAU30378

エンジンオイル

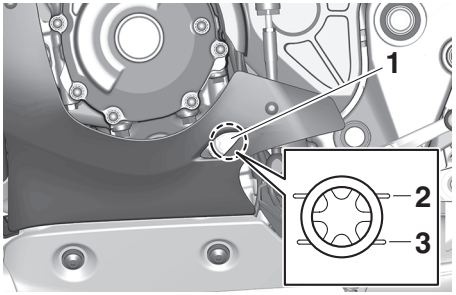
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

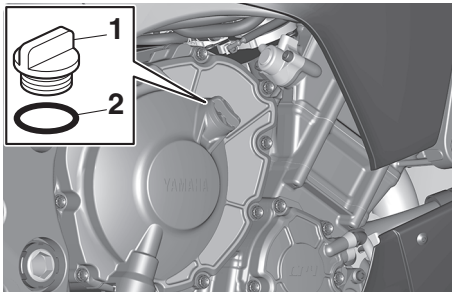


1. エンジンオイル点検窓
2. フルレベル
3. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、8-3 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
　オイル交換時 :
　　3.90 L
　オイルフィルター取り外し時 :
　　4.10 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
　30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠ 警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU91020

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

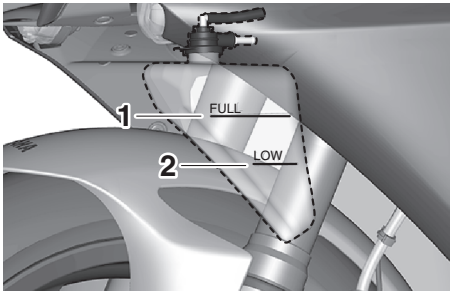
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を１対１で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠警　告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

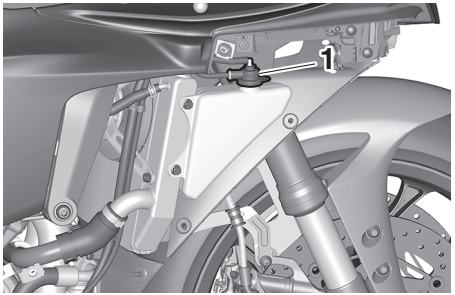
注　意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30843

冷却水の補充

1. カバー D を取り外します。（7-2 ページ参照）
2. リカバリータンクキャップを開け、冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

3. カバー D を取り付けます。

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765

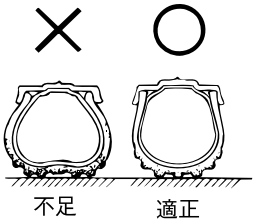
エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

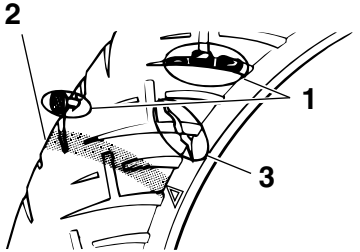
タイヤ空気圧（冷間時）：
1名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
2名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ
タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
120/70ZR17M/C (58W)
後輪：
190/55ZR17M/C (75W) (YZF1000)
200/55ZR17M/C (78W) (YZF1000D)
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX RACING STREET RS11F
後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX RACING STREET RS11R

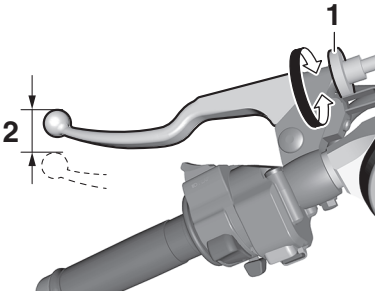
JAU48222

クラッチ

クラッチレバーの遊び

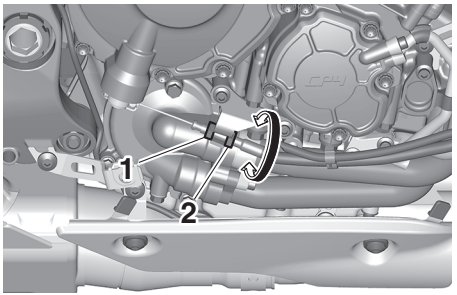
クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
10.0–15.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果、調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。
レバー側のアジャスターでクラッチレバーの遊びを規定値内に調整できない場合は、クランクケース右側にあるロックナットをゆるめて、アジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. アジャスター

JWA11841

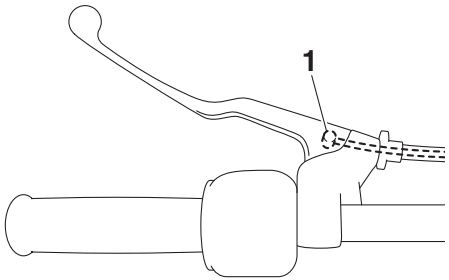
⚠警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- **調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。**
- **1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。**



1. ケーブル取り付け部

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

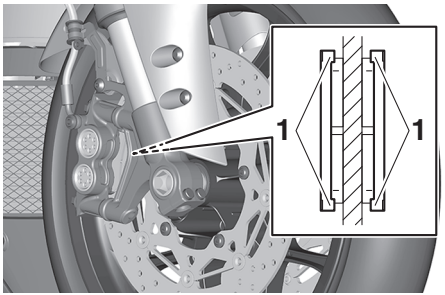
JAU49291

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

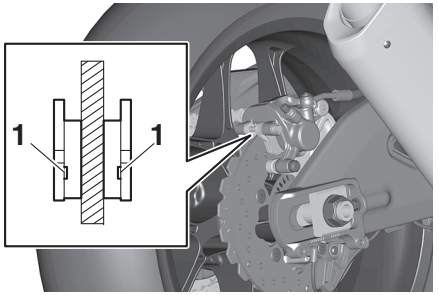
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

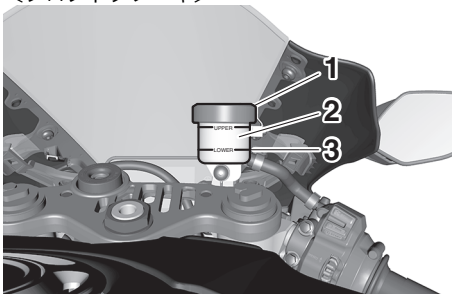


1. インジケーター溝

JAU44233

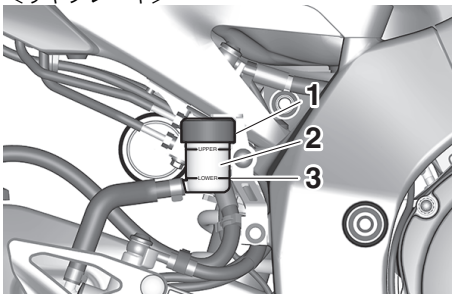
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

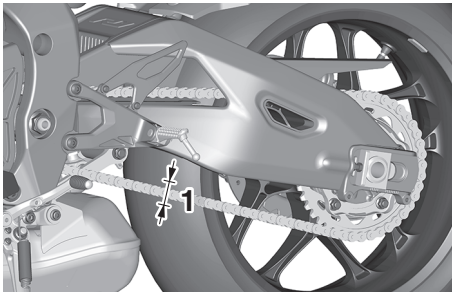
- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JAU22762

ドライブチェーン

JAU2277G

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：
25.0–35.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

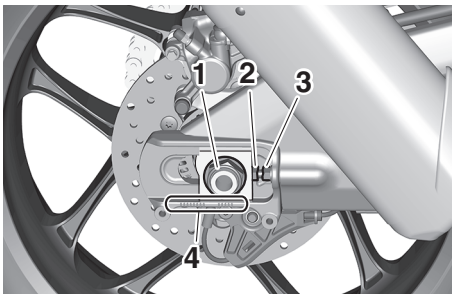
ドライブチェーンのたわみ量が 35.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
190 N·m (19 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU28621

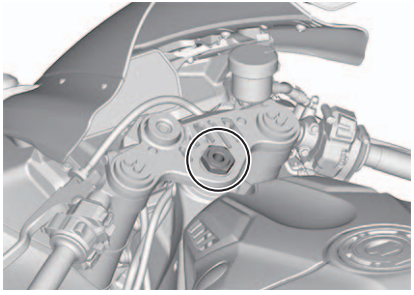
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU74800

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA23660

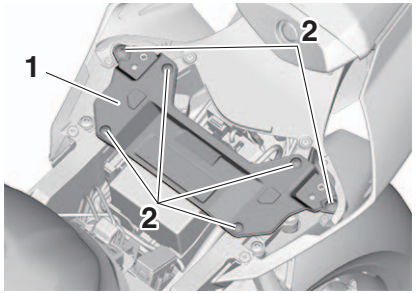
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12 V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、指定されたバッテリーを使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、IMU が故障してエンジンが停止するおそれがあります。**

JAU91030

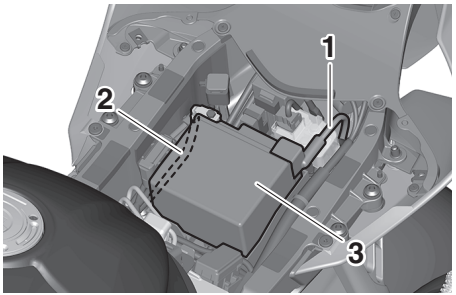
バッテリーの取り外し

1. ライダーシートを取り外します。（4-32 ページ参照）
2. ボルトを外し、バッテリーカバーを取り外します。



1. バッテリーカバー
2. ボルト

3. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。



1. ＋リード線
2. －リード線
3. バッテリー

4. バッテリーを取り外します。

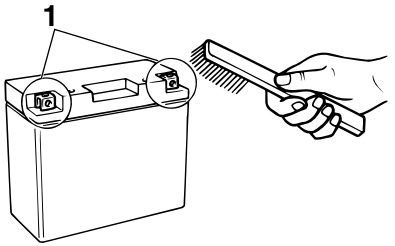
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

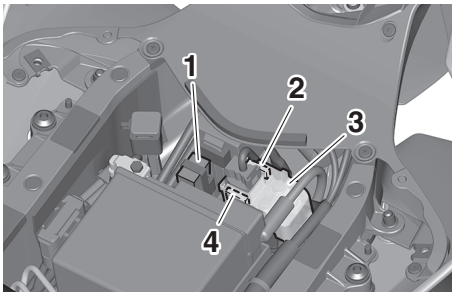


1. ターミナル

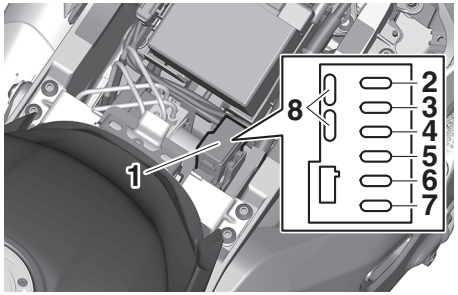
JAU66594

ヒューズ交換

メインヒューズと ABS モーターヒューズ、ヒューズボックス 1 はライダーシートの下にあります。（4-32 ページ参照）



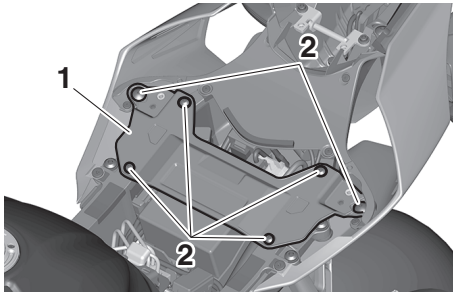
1. メインヒューズ
2. ABS モーターヒューズ
3. スターターリレーカバー
4. スペア ABS モーターヒューズ



1. ヒューズボックス 1
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. フューエルインジェクションヒューズ
4. 電子制御スロットルバルブヒューズ
5. バックアップヒューズ
6. サブラジエターファンモーターヒューズ
7. ラジエターファンモーターヒューズ
8. スペアヒューズ

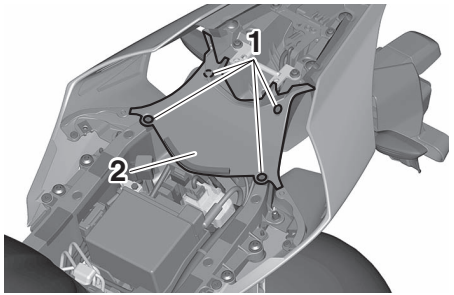
<u>メインヒューズとABSモーターヒューズへのアクセスのしかた</u>

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。(4-32 ページ参照)
2. ボルトを外し、バッテリーカバーを取り外します。



1. バッテリーカバー
2. ボルト

3. クイックファスナースクリューを外し、カバーを取り外します。

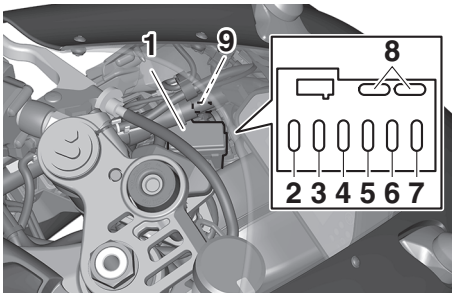


1. クイックファスナースクリュー
2. カバー

要　点

ABS モーターヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを外す必要があります。

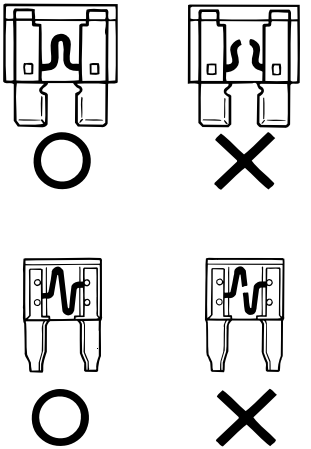
ヒューズボックス 2 はカバーA の下にあります。(7-2 ページ参照)



1. ヒューズボックス 2
2. DC ターミナルヒューズ 1
3. ヘッドライトヒューズ
4. ハザードヒューズ
5. ABS ECU ヒューズ
6. シグナルヒューズ
7. イグニッションヒューズ
8. スペアヒューズ
9. SCU ヒューズ (YZF-R1M)

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. 車両の電源ををオフにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：
メイン：
50.0 A
DC ターミナル 1:
2.0 A
ヘッドライト：
7.5 A
シグナル：
7.5 A
イグニッション：
15.0 A
ラジエターファンモーター：
15.0 A
サブラジエターファンモーター：
10.0 A
ABS モーター：
30.0 A
ハザード：
7.5 A
ABS ECU:
7.5 A
ABS ソレノイド：
15.0 A
SCU:
7.5 A (YZF1000D)
フューエルインジェクション：
15.0 A
バックアップ：
7.5 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A

3. 車両の電源ををオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

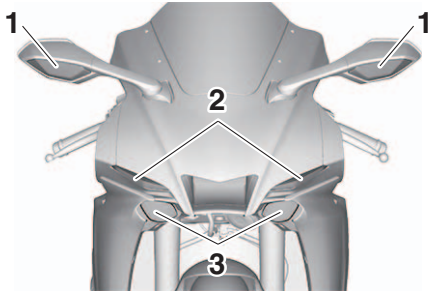
JCA12862

注 意

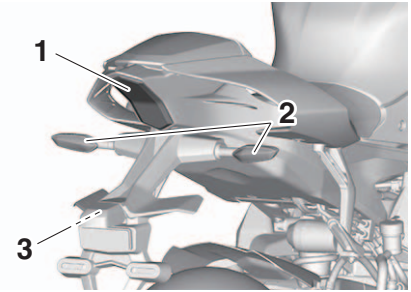
- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU74912

灯火装置および方向指示灯の点検



1. 方向指示灯（前）
2. マーカーランプ
3. ヘッドライト



1. ブレーキ / テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-15 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

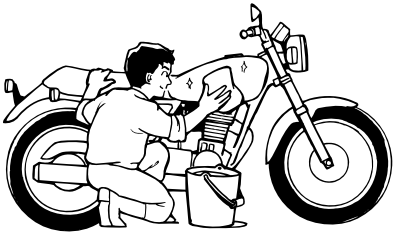
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27847

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。**

中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点
- 書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

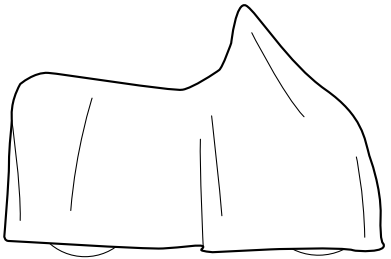
注 意

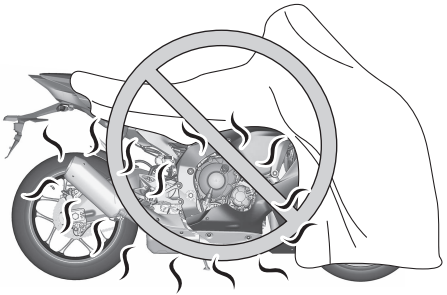
- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





8

JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU80981

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法：
全長：
2055 mm
全幅：
690 mm
全高：
1165 mm
シート高：
855 mm (YZF1000)
860 mm (YZF1000D)
軸間距離：
1405 mm
最低地上高：
130 mm

重量：
車両重量：
201 kg (YZF1000)
202 kg (YZF1000D)
乗車定員：
2 名

性能：
最小回転半径：
3.4 m

エンジン：
行程：
4 ストローク
冷却方式：
水冷
動弁機構：
DOHC
配列：
直列
気筒数：
4 気筒
総排気量：
997 cm³

フロントブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式ダブルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ：
種類：
チューブレス
サイズ：
120/70ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄：
BRIDGESTONE/BATTLAX RACING STREET RS11F

リヤタイヤ：
種類：
チューブレス
サイズ：
190/55ZR17M/C (75W) (YZF1000)
200/55ZR17M/C (78W) (YZF1000D)
メーカー / 銘柄：
BRIDGESTONE/BATTLAX RACING STREET RS11R

動力伝達機構：
1 速：
2.600 (39/15)
2 速：
2.176 (37/17)
3 速：
1.842 (35/19)
4 速：
1.578 (30/19)
5 速：
1.380 (29/21)
6 速：
1.250 (30/24)

エレクトリカル：
電圧：
12V

バルブワット数：
ヘッドライト：
LED
ブレーキ / テールランプ：
LED
方向指示灯（前）：
LED
方向指示灯（後）：
LED
番号灯：
LED
マーカーランプ：
LED

製品仕様

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ RS4GP、プレミアムシンセティック
エンジンオイル量 :
オイル交換時 :
3.90 L
オイルフィルター取り外し時 :
4.10 L
冷却水容量 :
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路 :
2.25 L
バッテリー :
バッテリー型式 :
YTZ7S(F)
バッテリー容量 :
12 V, 6.0 Ah (10 HR)
スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/LMAR9E-J
プラグギャップ :
0.6–0.7 mm

JAU36644

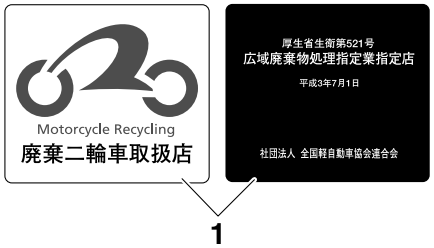
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



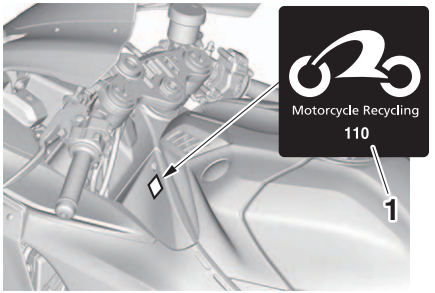
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：

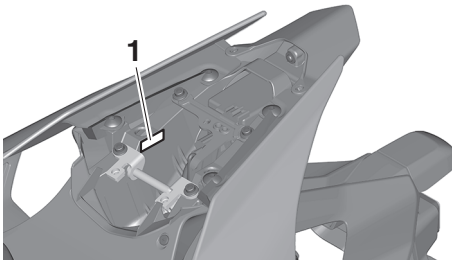
QQS-CLT-000-B3L

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、タンデムシート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

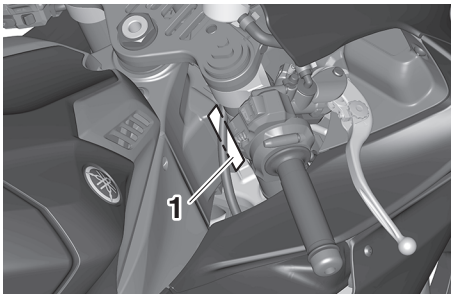
あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
YZF-R1 (YZF1000)
YZF-R1M (YZF1000D)

モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号



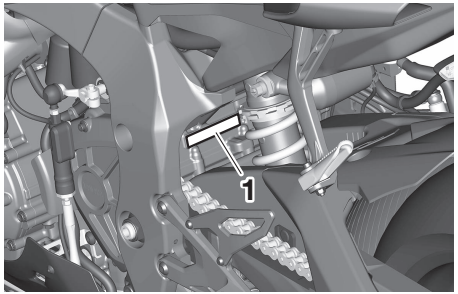
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

10

JAU50511

原動機番号

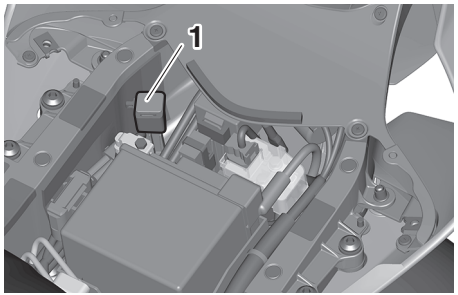


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

ユーザー情報

JAUA1210

車両情報の記録に関して
これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。
https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法
この車両に搭載されているコンピューターは、次の 3 種類の車両情報を記録しています。
1）車体番号
2）エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報
記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的
当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。
1）適切なメンテナンスや故障探求のため
2）適正な保証修理判定のため
3）製品の研究開発
4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため
5）その他の事業目的を達成するため
6）法律や規則に基づいて要求された場合

10

車両情報の提供に関して
利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および契約者会社に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口
車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。
ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

索引

あ
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 8-3
アルミフレーム、
キャストホイールの取り扱い..... 8-2
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム）..... 7-14

い
イグニッションサーキット
カットオフシステム 4-42
イモビライザーシステム 4-1

う
運行において異常が認められた
箇所の点検..... 7-18

え
エアクリーナーエレメントの交換..... 7-7
エンジンオイル 7-4
エンジン警告灯 4-6
エンジン始動 6-1
エンジンのかかり具合、
異音の点検..... 7-5

か
カバーの取り外し、取り付け 7-2
環境・住民の方との調和のために..... 1-6

き
キーの取り扱い 4-1
ギヤチェンジのしかた..... 6-2

く
クラッチ..... 7-9

け
警告灯と表示灯 4-6
原動機番号 10-3

こ
故障診断コネクター 10-3

さ
サービスツール.....7-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介.....10-2
サイドスタンド.....4-41

し
シート 4-32
シフトタイミングインジケーター
ランプ.....4-7
シフトペダル.....4-29
車体各部の給油脂状態の点検.....7-13
車台番号 10-2
車両情報 10-2
車両情報の記録に関して 10-4
車両の特徴 3-1
書類入れ 4-33
書類トランク.....4-34

す
スターター／エンジンストップ
スイッチ.....4-4

せ
洗車.....8-1

た
タイヤ 7-7

ち
駐車.....6-4

て
DC コネクター 4-41
ディスプレイ.....4-8
低速、加速の状態の点検 7-6
点検整備の実施 7-1

と
灯火装置および方向指示灯の点検.... 7-18
ドライブチェーン..... 7-12
ドライブチェーンの給油 7-13

な
ならし運転..... 6-1

に
日常点検箇所／点検内容 5-1
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

ね
燃料 4-31

は
ハザードスイッチ..... 4-5
バックミラー 4-34
パッシングライト／
ラップスイッチ 4-4
バッテリー 7-14
ハンドルスイッチ..... 4-3

ひ
ヒューズの交換 7-15

ふ
フューエルタンクキャップ 4-30
ブレーキ..... 6-3
ブレーキ液量の点検..... 7-11
ブレーキコントロール (BC) 4-29
ブレーキパッドの点検..... 7-11
ブレーキランプスイッチの点検..... 7-10

11

ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検 7-10
ブレーキレバーの握り調整.....4-41
フロントフォークの調整.....4-34
へ
ヘッドライト上下切り替え
スイッチ.....4-4
ヘルメットホルダー 4-33
ほ
ホーンスイッチ.....4-4
方向指示器スイッチ 4-4
保管のしかた.....8-2
歩行者と他の車のために.....1-5
補助システム警告灯 4-8
め
メインスイッチ.....4-2
メニュー画面.....4-13
も
モデルラベル.....10-2
ゆ
油圧・冷却水温警告灯 4-8
よ
用語集 3-4
り
リヤクッションの調整 4-37
れ
冷却水 7-6
わ
YRC（ヤマハライドコントロール）....3-1
YRC 設定 4-14
YRC ビジュアルガイド 3-5

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-BMP

PRINTED IN JAPAN
2023.10-0.3×1 CR (J)